

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県南陽市

自治体名：山形県南陽市

担当課名：学校教育課

電話番号：0238-40-3211

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	160.52 km ²
人口	29,274 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	749 人
部活動数	38 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市中学校における生徒数の減少は著しく、部活動の休部や廃部などで取り組みたくても希望する競技が設置されていない学校や、部活動があっても部員不足で合同チームで大会参加している数が増加傾向にある。

本市は、令和5年度より検討委員会を設置している。検討委員会では、令和5年度から7年度までの3年間で、**段階的に休日の部活動の在り方を見直し、生徒が自由に活動を選択できる環境を整備し、選択の一つとして地域スポーツ・文化芸術活動の場を確保するべく取組を推進している。**

また、**部活動種目を現状のまま移行するということではなく、生徒にできる限り多様な選択肢を提供して休日の暮らしを豊かにすることを目指して体制整備に努めている。**

推進するにあたり、多様な種目に取り組める環境の確保や保護者による受益者負担への理解、指導者の質・量の確保等が課題となっており、今まで以上に各学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、**社会教育施設や社会教育団体等の各種団体と連携するなど、運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制を整えられるよう努めていく必要がある。**

R5 新人大会)

	野球	ソフトボール	サッカー	ソフトテニス	バスケ	バレー	卓球	剣道	柔道	陸上	総合運動	美術	吹奏楽
沖郷中	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
赤湯中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮内中	●	●	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
地域クラブ				☆			☆	☆					
県中体連登録						◎							

○設置部活動 ▲休部・廃部 ◎県中体連登録クラブ ☆モデル種目
●合同チーム

R6 地区新人)

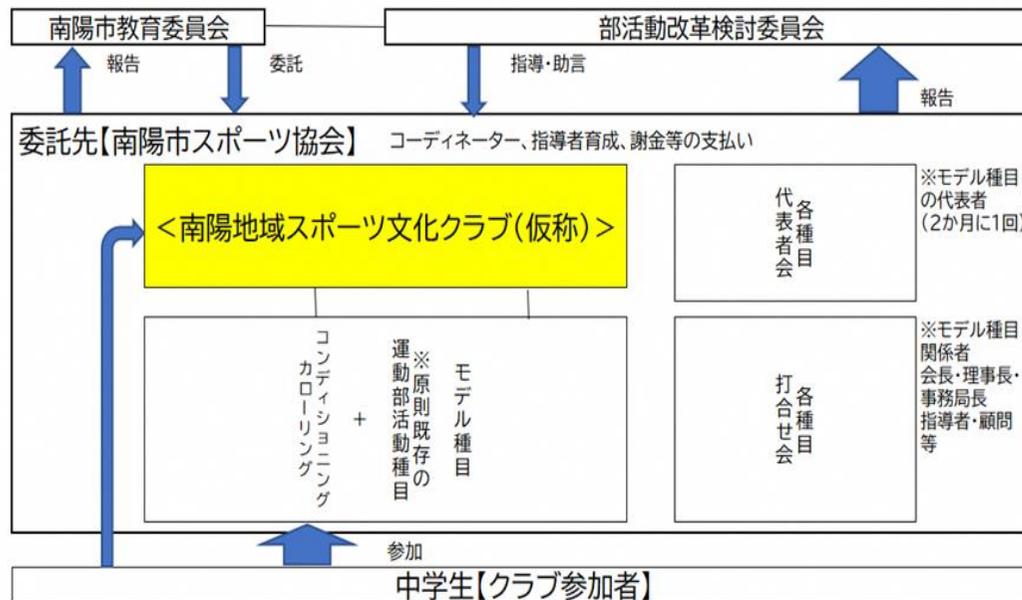
	野球	ソフトボール	サッカー	ソフトテニス	バスケ	バレー	卓球	剣道	柔道	陸上	総合運動	美術	吹奏楽	コンディショニング	カローリング
沖郷中	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
赤湯中	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
宮内中	●	●	○	○	○	●	○	▲	▲	○			○		
地域クラブ	☆		☆	☆ ₂		☆		☆	☆	☆	☆			☆	☆
県中体連登録				◎		◎		◎	◎						

○設置部活動 ▲休部・廃部 ◎県中体連登録クラブ ☆モデル種目
●合同チーム

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・各中学校との調整・連絡
- ・関係団体との連絡・調整
- ・首長部局との協議 等

◎みらい戦略課

- ・教育委員会との協議
- ・他課との連絡・調整
- ・関係予算の計上 等

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回 検討委員会
令和6年6月	モデル種目説明会、申請開始
令和6年7月	第2回 検討委員会 モデル種目活動開始 指導者育成研修会①②
令和6年8月	部活動改革説明会①
令和6年9月	指導者育成研修会③
令和6年11月	第3回 検討委員会 トップアスリート講演会
令和6年12月	指導者育成研修会④ 児童生徒、保護者等アンケート
令和7年1月	先進地視察 部活動改革説明会② モデル種目活動終了
令和7年2月	第4回 検討委員会

※年間を通して、モデル種目を中心に課題の集約
競技団体の担当者との打ち合わせを実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	11 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9 クラブ（29 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	40 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
南陽柔道クラブ	地域クラブ	柔道	週3回	平日・休日： 19:00~21:00	幼児 小学生 中学生 一般	通年	南陽市民 体育館	3 人	1 人	年会費 10,000円	中体連：部 活動・地域ク ラブ その他：地域 クラブ
南陽FC	地域クラブ	サッカー （新）	週4～5回	平日： 19:00~20:30 休日： 8:00~11:00	中学生	通年	市内中学校 市内高校 等	8 人	1 人	月会費 5,000円	中体連：地 域クラブ その他：地域 クラブ
南陽市陸上競技協会	競技協会	陸上（新）	月1回	休日： 9:00~11:30	中学生	通年	米沢市陸上 競技場 長井市陸上 競技場	4 人	1 人	年会費 5,000 円	中体連：部 活動 その他：部活 動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
清心館道場	スポーツ少年団	剣道	週3回	平日・休日： 19:00~21:00	小学生 中学生	通年	南陽市民体育館	3人	1人	年会費 12,000円	中体連：部活動・地域クラブ その他：地域クラブ
西部バレーボールクラブ	地域クラブ	バレーボール	週3回	平日： 19:00~21:00 休日： 9:00~13:00	中学生	通年	市内中学校 市内体育施設等	3人	1人	年会費 25,000円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
南陽ソフトテニス赤湯	スポーツ少年団	ソフトテニス	週3回	平日： 18:30~20:00 休日： 7:00~9:00	中学生	通年	赤湯中学校テニスコート	2人	1人	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
南陽ソフトテニス宮内	スポーツ少年団	ソフトテニス	週4回	平日： 18:30~20:30 休日 9:00~12:00	小学生 中学生	通年	宮内中学校テニスコート	2人	1人	年会費 15,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
南陽置賜ゲンキーズ	地域クラブ	軟式野球	週1回	休日 8:30~11:30	中学生	通年	市内中学校 市内高校	5人	1人	月会費 2,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
SHINE.N TC	競技協会	卓球	週3回	平日： 19:00~21:00 休日： 9:00~	小学生 中学生 高校生 一般	通年	市内中学校 公民館	4人	1人	年会費 6,000円	中体連：地 域クラブ その他：地域 クラブ
南陽市カ ローリング協 会	競技協会	カローリング	月1回	休日： 19:00~20:00	幼児 小学生 中学生 高校性 一般	通年	市民体育館	3人	1人	月会費 1,000円	その他：地域 クラブ
ヤマガタアス リートラボ	一般社 団法人	トータル コンディショ ニング	月2回	休日： 2時間程度	中学生 以上	通年	市民体育館 他	3人	1人	会費(回) 1,000円	大会なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- トップアスリート講演会及びモデル種目体験会
- 各種目における体験会の実施

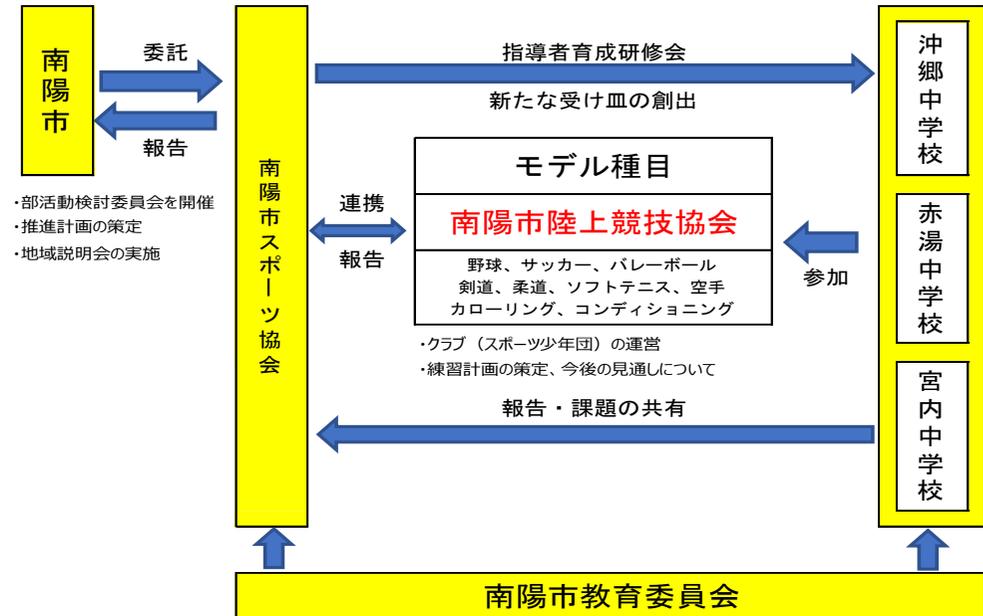
2.実証内容と成果

主な取組例

●南陽市陸上競技協会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	南陽市陸上競技協会
期間と日数	陸上：8月1日～1月31日 月1回程度（など）
指導者の主な属性	陸上競技協会 事務局員
活動場所	米沢市陸上競技協会 等
主な移動手段	保護者
1人あたりの参加会費等（年額）	陸上：5,000円/年（200円/回）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名 役割：全体の統括、確認等
- 主任指導者 3名 役割：選手に対して直接的に技術指導を行う
- 運営補助者 1名
役割：日程や会場の調整・確認を行う。指導者の調整を行う
選手の出席状況を確認し、事務局に活動の報告を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・多角的な視点で活動を行う総合コーディネーターを配置し、関係団体・市当局との連絡調整・指導助言等を行う。
- ・生涯スポーツの観点から多世代が交流できるプログラムを推奨し、自立した運営のできる組織体制を構築する。

取組の成果

地域クラブ等に参加した中学生201人を対象としたアンケートの結果、回答者の91.5%が「大変満足している」「やや満足している」と答えている。その多くが「好きな種目に取り組める」「技術が向上している」「挨拶や時間厳守など社会性を身につけられる」と肯定的な回答をしていた。活動が充実していることに加えて、教育的な意義についても言及がみられた。

教員の働き方改革の視点では、令和6年11月の中学校教員の時間外勤務時間が前年比で**平均 7 時間**削減しており、働き方改革推進の一役をかつているものと推察される。

モデルとなる競技数が昨年度の3クラブから10クラブに増加し、競技団体や関係者との連絡調整が進んだことが伺える。指導者の資格の有効期限（質の確保に関わる）についての課題も見えてきた。

地域クラブの活動は満足しているか



令和6年度山形県地域スポーツ・文化芸術活動に係る実態調査（南陽市）より

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・先進地視察や域内での情報交換会を通して、情報の収集に努めた。各競技団体との打ち合わせで、望ましい地域クラブの在り方やクラブ設立に向け助言を行った。各団体との連絡調整の中で、中学生の受入可否に関わらず、現有の資源について調査を行い、資源マップにまとめた。

今後の課題と対応方針

- ・中学生を対象とした地域スポーツクラブは設置数が極端に少なかったが、徐々に整備が進んでいる。整備は生涯スポーツの観点でも重要だと捉えており、指導者の質や量の確保が急務である。教職員の兼業も含め、再度希望調査等を実施していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

○指導者（育成）研修会 I

- <内容> 講義① ジュニア期におけるスポーツ活動とその指導
※南陽市部活動ガイドラインの説明含む
講義② スポーツや熱中症における死亡・障害事例
実習① コンディショニング基礎講習

○指導者（育成）研修会 II

- <内容> 実習② 普通救命講習・けが等における応急処置
情報交換 多種目との課題等の共有

※ 研修会の I と II の両方を受講した指導者に、モデル種目における認定指導者として修了証を発行した。

種目

○全種目で必須

資格有無

○資格の有無は問わないが、取得を推奨する

指導者研修の参加実績

・開催日：研修会 I 7月7日、9月28日

研修会 II 7月28日、12月1日

・開催回数：4回 ・参加人数：のべ53人

※県スポーツ協会が主催する指導者研修会が本市の研修内容と類似していたため、その修了証を持って市の認定指導者に登録（数名）

受講者の声

研修会 I

- ・生徒への伝え方、思考の引き出し方など有意義な講習でした。自分の指導を振り返るいい機会となりました。
- ・質問の仕方や声かけで相手への伝わり方が変わると感じたので、指導現場で実践したいと思いました。

研修会 II

- ・いつどんな場所で行くかわからないので、いざというときに救命や応急手当ができるように知識と実践形式の体験が大切と感じた。これまで抵抗感や不安があったが、今回の研修で解決した。
- ・消防士の方の説明がわかりやすくとてもよかった。この企画は今後も続けてもらいたい。

今後の課題と対応方針

指導者の質と量の確保のため、できるだけコンパクトな研修会を実施したが、指導者の都合で参加できない場合もあり、今年度は別に対応した。市スポーツ協会主催の講演会など、検討委員会で開催する研修以外の機会も認定やリフレッシュのために活用できないか調整が必要である。また、認定指導者の認定期間を3年と考えているが、3年間の中でスキルアップにつながる研修等についても検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・学校と連携して進めていくため、中学校長会で検討いただく場面の設定や教育研究所主催の教職員研究発表会で、小中学校の教職員を対象に研修の場を設定する。
- ・協会や連盟、スポーツ少年団本部、学校関係者など種目別関係者による運営会議を開催し、指導体制について確認、連携する。

取組の成果

- ・市の目指す方向性や現在の進捗について研修をする機会を持ったことで、多くの先生方に理解を深めていただいた。以下はその感想の一部である。
⇒新たな、学校にない競技をあきらめることなく、挑戦したり継続したりすることができるのは、とても恵まれていると感じました。
- ⇒部活動は、これからも続いていくものかもしれないが、**ねらいは何か、目的はどこなのか、今後も検討していきたい。**
- ・協会や連盟と連携し、関係者との打ち合わせを開催した。今後の体制について共有できたことに加えて、具体的な指導体制について検討いただく場面もあり、地域の受け皿となるクラブの設立につながった。



教育研究所 全体研修の様子

教職員研究発表会 全体研修

- ・日時 令和6年11月6日（木）
- ・参加者数 185人（内訳）
- ・参加者の所属
市教育委員、市内小中学校教職員

ソフトボール競技 運営関係者会議

- ・日時 令和6年11月28日（金）
- ・参加者数 25人（内訳）
- ・参加者の所属
市ソフトボール連盟正副会長、理事長
事務局員、各中学校顧問、保護者会長

今後の課題と対応方針

本事業について徐々に浸透してきてはいるが、より自分事として、多くの保護者や市民に理解いただくことで活動の可能性が広がるものと感じている。説明会の開催を継続することに加え、説明会の内容について、市のホームページ等を活用し、啓蒙を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- ・生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツに親しむ機会の確保に取り組む。
- ・モデルとなる種目に、学校部活動に設置のない種目（カローリング、コンディショニング、空手）を設定し、生徒の志向に合った種目を実施する。
- ・体験会を実施し、これまで経験したことのない種目においても、選択できるようにする。

活動の詳細

参加人数	のべ 280 人（体験会含む）	指導者数	8 人
属性	地域スポーツ団体		
具体的な内容	多様性への対応として、生徒アンケートで記載が多かったニュースポーツやコンディショニングをモデル種目として指定した。実際の活動こそ参加者は少なかったが、参加した生徒のアンケート結果からもわかるようにとても充実したものになった。反面、今後はだれでも参加できる機会を設けていきたい。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 部活動と違うことにも挑戦する機会があつてうれしい。 ● もっと他の競技にも取り組む機会がほしい。いろいろやってみたい。 ● 休日の開催日時が学校の部活動と重なり、参加したくてもできないことがあった。 		
関係者の声	カローリングは、従前の部活動種目にはありません。カローリングをモデル種目の一つとして、今後も周知いただければ幸いです。 コンディショニングは、ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスまで幅広く取り組める種目です。選手としても、そうでなくても活動を提供していきたいです。		
運営経費	<ul style="list-style-type: none"> ・一人500円/回で実施、施設の使用料や指導者謝金、消耗品の購入に充てた。 ・体験会については、本事業より支出し、施設の借用や消耗品については事業費で負担した。 		



体験会の様子

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

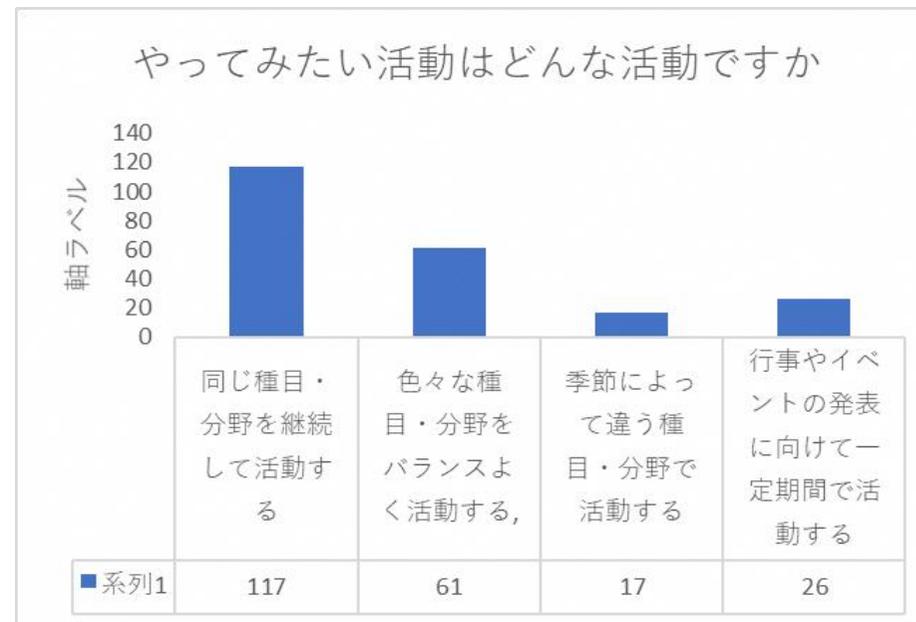
取組の成果

新たな受け皿を創出していくことは、これまで種目が限定されていた部活動とは違い、生徒の志向に合わせた活動が期待できる。特に、少子化の影響で学校部活動が休部、廃部と続く中、希望する競技に取り組むチャンスが創出できる。

実際、アンケートの結果からも、「同じ種目・分野を継続して活動する」が一番多いのに対して、「いろいろな種目・分野をバランスよく活動する」ことを望む生徒も一定数いる。このことから新たな受け皿としての「カローリング」や「コンディショニング」は、いろいろな種目という視点やニュースポーツという視点からも多くの可能性を秘めている。また、小中学生という育成年代に様々な競技に挑戦することが可となった。結果、学校部活動と違う競技の地域クラブに参加している生徒もあり、競技者として一つの競技のみに限定されない活動になっている。

今後の課題と対応方針

新たな受け皿が創出され、選択肢が増えていくことで活動内容が充実していくことは、生徒が主体的に選択して活動できることや志向に合わせて複数の競技に挑戦できる意味で大変有意義である。しかし、団体競技については、選択肢が増えた分、選手確保の困難さが増している。すでに選手の確保を大きな課題として挙げている地域クラブも出てきていることから、新



令和6年度山形県地域スポーツ・文化芸術活動に係る実態調査（南陽市）より

たな課題として選手確保や広域連携を取り上げていく必要がある。特に広域連携に関しては、他市町の地域クラブの考え方が違うことによる弊害もあるため、近隣市町とその在り方についても調整を行い、生徒にとっても互いの市町にとっても実現・持続可能な対応を考えていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・施設使用や指導者の謝金等、必要な経費項目・金額について支援し、実態の把握を行う。

※指導者の謝金については、部活動指導員と同額の1,600円/時間として検証する。

・困窮世帯に必要な経費項目・金額の調査を実施する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・地域クラブの立ち上げに際して、競技によつての違いはあるが、競技に必要な備品や消耗品、大会参加等に必要なユニホーム等、一時的に負担が多くなることも推察される。特にユニホーム等に関しては、これまでの学校部活動では、数年に一度更新したものをチームで管理するケースが多く、備品やユニホームの購入には積立での購入が多いようだ。

■ランニングコストの分析

・学校部活動では、部費が存在せず、保護者会費としての集金が多い。保護者会費からの支出は、中体連主催大会以外の大会参加料や施設使用料などに充てられており、クラブを運営する経費と比較すると、指導者の謝金が発生することに加え、施設借用の際に、学校施設を利用するにしても、新たに使用料が発生し、負担が増えそうだ。

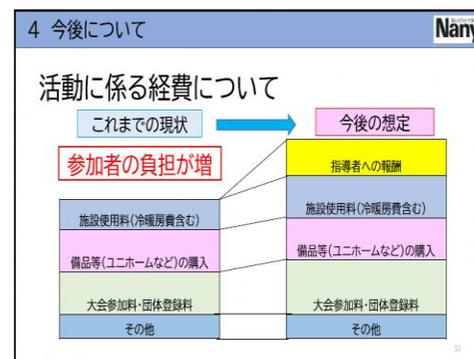
持続的な運営に必要な受益者負担額の試算



モデル種目での試算では、選手一人当たり月ごとに1,600円から2,500円程度の負担となることが分かった。地域クラブによっては、月ごとの活動回数が異なるため、平等に負担することが相応しいか検討が必要である。

R6地域スポーツクラブ体制整備事業
決算より算出

収支バランス



部活動改革説明会資料より

謝金のみでも2,000円程度の負担が生じる。他に施設使用に係る受益者の金銭的な負担や移動に係る保護者の負担が考えられる。受益者の金銭的な負担に、市費等の財源や、新たな財源についても検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- ・受益者による費用負担の増については、徐々に理解が浸透してきている。しかし、大幅で急激な負担増については、なかなか理解を得られていない。今後も緩やかな負担増となるような配慮が必要か検討する必要がある。
- ・中学生の活動を受け入れ、モデル種目として活動している地域クラブに対し冷暖房費と照明代の補助を行うことによって、持続的にクラブを運営するために必要な資金について検討を行うことができた。また、受益者負担が増えていく傾向の中で、経済的理由でクラブをやめる生徒はなく、結果として貧困世帯への支援にもつながっている。
- ・熱中症が懸念される中で、室内競技は夏場の冷房使用料の負担が増加しており、また冬季間は屋外競技の室内練習場の使用やけが予防のための暖房使用料の費用負担が増加していることが分かった。生徒の安全管理を行う上でも施設利用に関連する費用について今後更なる検討が必要である。

今後の課題と対応方針

これまでの学校部活動では、保護者会費としての集金がほとんどで、中体連主催大会への参加、活動に係る保険料等は学校集金の中から支出されていた。備品や消耗品の購入などは、各学校の後援会組織より支出、負担いただいていたものが多い。そのことについて丁寧に理解いただき、再度費用負担については、保護者に啓蒙していく必要がある。

Nanyo

4 今後について

参加者の負担が増

活動に係る経費について

公立中学校で年間にかかる・・・

部活動の費用	24,172円/年 15,000円 2,014円/月	メンバー構成：学校単位 指導者：教職員(資格なしも) 指導者報酬：なし 会場使用料：学校施設使用で0円 選べる範囲：選択肢が狭く・限定的
学校外活動費 (塾・習い事など)	367,776円/年 30,000円 30,648円/月	

子どもの学習費調査(令和3年度 文科省)

部活動改革説明会資料より

- ・保護者に受益者負担について理解いただくための資料。
- ・部活動は、特殊な状況であったことを理解いただく

また、貧困世帯については、市の就学援助規定の中で、学校部活動に係る費用も一部負担している。現在多くの生徒が、学校部活動と地域クラブを両立して活動している状況のため、貧困世帯にとっても学校部活動として支援を受けている状況である。今後、学校部活動に加入せず地域クラブのみに参加する生徒ができた場合、検討課題となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

・学校の施設・設備・備品等を使用して、地域スポーツクラブ活動を実施する際の利用ルール（施設・設備・備品等の利用範囲や破損・紛失した場合の対応、施設の開閉手段・方法を含む）を策定する。

・学校部活動と地域クラブが同時に活動を展開することから、どのようなシステムで予約するかを確認していく必要がある。特に学校の施設利用の調整や設備・備品の使用については一定のルール作りが必要である。

取組の成果

市内の体育施設や文化施設、各小中学校の体育館やグラウンドなどについて借用方法、鍵の貸し借り、管理方法等について一斉の調査を行った。市の体育施設については、指定管理での一定の基準はあったが、学校施設については、学校間で大きな違いがあり、管理の窓口も学校が担う施設と公民館が担う施設が混在していることが分かった。他にも、施設利用料が発生する施設と減免の施設も混在しており、調整が必要なが分かった。

しかし、借用の窓口が明確になったことで、施設を使用したい時に、どこに連絡すればいいかが周知（資源マップにも記載）され、スムーズに施設の活用につなげることができるようになった。



R6地域スポーツクラブ体制整備事業で作成した、南陽市資源マップ

今後の課題と対応方針

これまで社会教育団体は、体育施設を減免（実質無料）で使用していた。しかし、現在整備中の地域クラブは社会教育団体を兼ねるクラブもあれば、兼ねていないクラブもあり、利用料が発生することも懸念される。ま

た、学校部活動を優先としながらも、利用可能な日を確認したうえで積極的な貸し出しや上記取り組みに記載の課題についても今後調整を図っていく必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域クラブ体制整備事業の中で、クラブの運営に係るスタッフのうち、生徒への指導に係る指導者と謝金等の管理を行う事務員を分けて、地域クラブ全体の運営を試みた。モデルとなる種目を10競技11団体設定して運営した。また、指導者には市独自の指導者研修会の受講を必須とし、指導にあたった。安全面での配慮を行いながら、指導者はある程度指導に集中することができ、クラブに参加している生徒からも肯定的な意見が多く聞かれた。実際多くの指導者からは、指導はできるが、事務的な手続きが苦手という課題も出ていたことから、事務的な役割をある程度一括して運営することは有効なものと捉える。

また、部活動改革について多くの保護者や市民にご理解いただくために、説明会を年2回開催し、情報発信に努めてきた。他にも、教職員向けの研修会も開催し、その方向性について小中学校とも共有しながら推進している。活動の主体となる児童生徒とその保護者については今後も継続して説明の機会を創出していく必要がある。

●成果の評価

多くの地域クラブからは、指導者研修で生徒との関わりかたや自分の指導を振り返る機会となっていることについての評価や指導謝金がある事で、指導者の責任に対する自覚やモチベーションに繋がっているとの声を聞いている。重ねて事務的な機能を一括して運営いただくことは大変ありがたいが、報告の書類等が煩雑になりがちで、指導者も事務員もスムーズに事務を行うためにも、簡略化されたシステム等の導入が望まれる。

また、説明会を通して、今後の方向性や受益者負担への理解が進んできているものと感じている。他にも競技ごとの説明会などを通して、地域でスポーツを担っていかうという機運が浸透しつつある。今後も関係機関との連携のもと、丁寧に事業を進めると同時に、説明を行っていく必要がある。

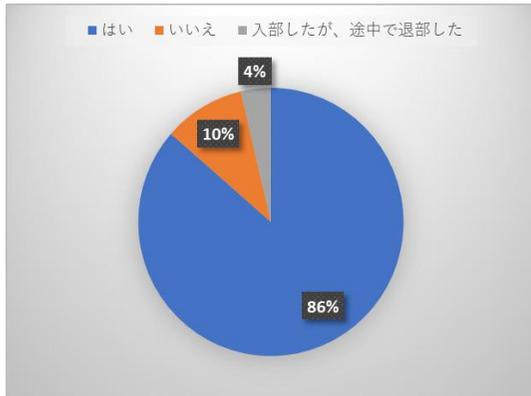
●今後に向けて

指導者や運営事務員の過負担軽減のために、事務員と指導者、選手や保護者とつながる連絡システムの導入やホームページの作成など、情報伝達や周知のためのツールの活用を進めたい。その上で事務の簡略化や施設利用管理についても検討を進めていきたい。事務員の確保やシステムの導入、ホームページ等の管理を考えたときには、人件費やシステムの使用料等の新たな支出もあることから、その財源をどのように確保していくかが今後大きな課題となるが、企業協賛等の新たな財源についても情報を集めて、クラブ運営を進められるようにしていく。

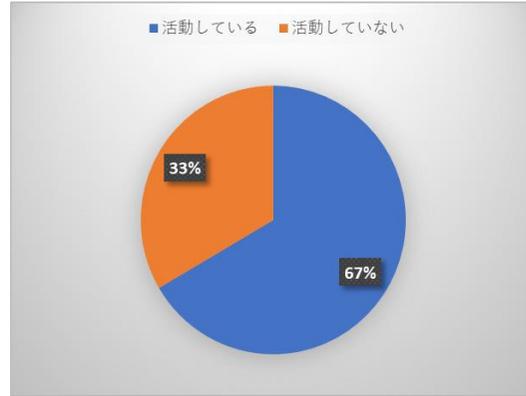
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

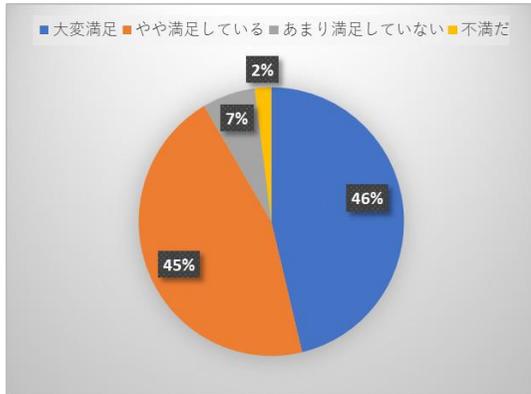
Q.あなたは部活動に加入していますか？
【部活動加入率】



Q.あなたは部活動以外の外部での活動に参加していますか？



Q.現在あなたが行っている外部での活動等に対する満足度をお答えください。



Q.現在あなたが行っている活動に対する肯定的な理由は？（2つ選ぶ）



●参加者の声

中学1年生 男子

学校に部活がなくて競技をあきらめようと思ったが、地域クラブがあって競技に取り組むことができました。学校でも違う文化部の活動に取り組んでいて、活動は疲れるが毎日充実している。

中学3年生 男子

中学校部活動であれば、中体連の大会で引退だったが、クラブの活動には引退がなく、秋の東北大会へ参加することができた。この経験を活かして、今後も自主トレに励み、高校でも競技を続けたい。

指導者

小学校と中学校が同じ会場、同じ環境で練習を行っており「中学部」「小学部」のそれぞれのコーチが連携をとって指導にあたっている。先輩後輩が互いに刺激になる部分もあり大変良い。

指導者

指導者として登録してくれる若手ができていてありがたい。地域のスポーツ団体として、持続可能な活動にしていくためにも、目の前にいる子供たちと新たな指導者をしっかり育てていきたい。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

部活動改革の進捗や今後の地域クラブ活動がどうなっていくかを知っていただくためにチラシを作成した。対象として中学生、保護者、教職員、地域住民と設定し、説明会や意見交換会、講演会やモデル種目による体験

会を実施した。それぞれ、市のSNSや各中学校の保護者連絡メールを活用して広報をしたが、より多くの方へ周知するために、印刷したチラシも作成し、地域住民や保護者を中心に配付・広報した。

令和6年度 南陽市地域スポーツクラブ体制整備事業

南陽市部活動改革

説明会 & 意見交換会

望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築に向けて

南陽市では、国や県が示す方針やガイドラインに則り、部活動改革を進めております。改革の目安として設定している令和8年度に向けて、今後さらなる推進を図るため、説明会及び意見交換会を開催いたします。多くの方より部活動改革についてご理解いただき、そのあり方についてご意見をいただきたいと思います。子どもたちが輝く、地域スポーツ・文化芸術環境の構築に向けて、そのあり方を一緒に考えていきましょう。

令和7年 1月28日(火) 参加無料
事前申込

時間 18:30~20:00
講師からの説明の後に、意見交換会の時間を考えております。

対象者 どなたでも参加いただけます。

参加方法 事前申し込みはQRコードで

会場 シェルターなんようホール / 小ホール ▲参加申し込みはコチラ

講師
山形県教育局学校体育保健課(部活動改革)担当
<テーマ>
山形県における学校部活動改革の指針や、今後具体的にどのような取組を各自自治体に期待しているのかについてお話しいたします。
また、来年度改訂予定の部活動に係るガイドラインについて、その方向性について現段階での進捗をご説明いたします。

説明
南陽市部活動改革検討委員会担当者

意見交換
南陽市部活動改革検討委員会事務局(進行)

お問い合わせ 南陽市教育委員会 学校教育課
TEL: 0238-40-3211(内線516) Mail: gakkyo2@city.nanyo.yamagata.jp

【部活動改革説明会チラシ】 出典:南陽市部活動改革検討委員会

令和6年度 南陽市地域スポーツクラブ活動体制整備事業

トップアスリート講演会

参加無料

11月30日(土)
13:30~15:00 (13:15~開会)

南陽市民体育館 (武道場)

講師 宇山 賢 氏

「今チャレンジすることの大切さ」

対象 小学生・中学生・高校生
(保護者の方も講演会に参加可能です。◎別申込)

東京 2020 オリンピック競技大会
フェンシングエベ団体 日本代表 金メダリスト
東京オリンピックではエベ団体において日本フェンシング史上初の金メダル獲得に貢献。競技普及やキャリアなど国内スポーツ課題解決に取り組む。物事を徹徹して見る広い視野が武器。

体験 15:15~16:30
南陽市民体育館 (メインアリーナ/武道場)
協力: 南陽市スポーツ協会 / 南陽市カローリング協会 / yamagata_athlete_lab

その他
13:00から武道場で受付開始、13:15から開会行事を開始します。運動のできる服装でお越しいただき、内履きを持参下さい。

申し込み
右の2次元コードよりフォームに進み、必要事項を入力ください。
11月29日(金)正午までお申し込み下さい。
※児童生徒は講演会と体験会が原則セットでの申し込みとなります。

お問い合わせ先 南陽市地域スポーツクラブ活動体制整備事業 事務局
南陽市スポーツ協会 事務局 0238-49-2600
または 南陽市教育委員会 学校教育課 0238-40-8454

カローリング 令和6年度モデル種目
コンデションニング 令和6年度モデル種目

▼申し込み QRコード

【トップアスリート講演会】 出典:南陽市部活動改革検討委員会

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



指導者育成研修会①



指導者育成研修会②



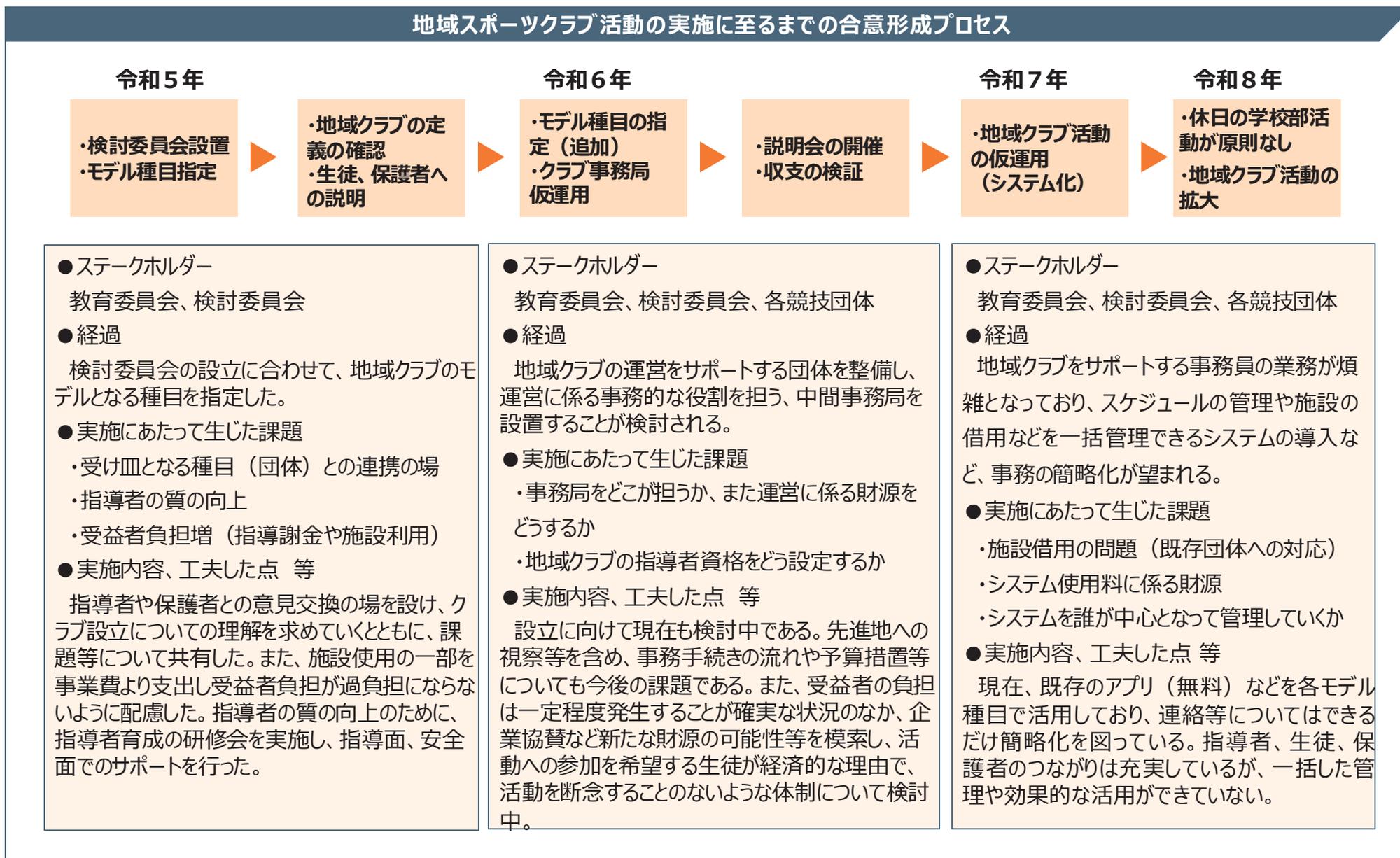
トップアスリート講演会



部活動改革説明会

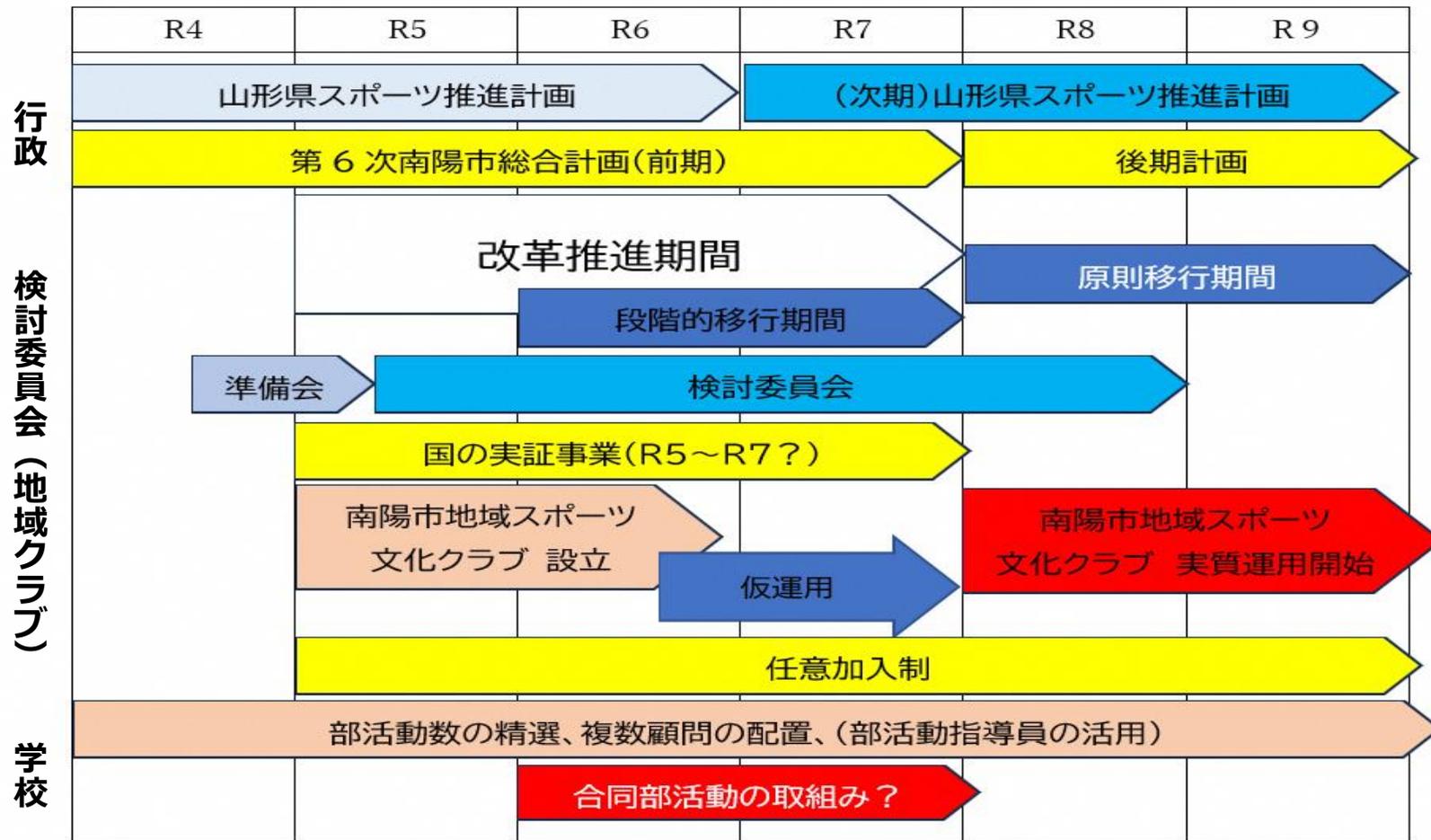
2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



R8 「原則休日の部活動を行わない」をめざす

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 山辺町

自治体名：山形県山辺町

担当課名：教育委員会教育課

電話番号：023-667-1115

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	61.45 km ²
人口	13,342 人 (令和7年1月31日現在)
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	360 人 (令和7年1月31日現在)
部活動数	14 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

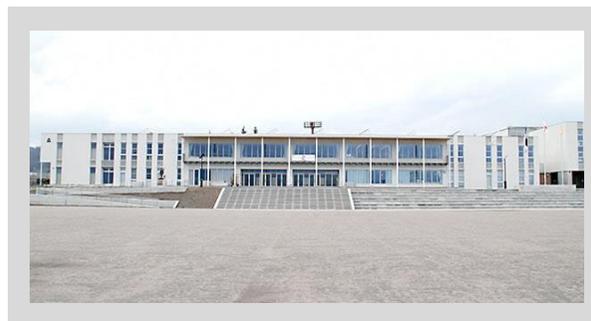
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

(現状)

当町は県都山形市の北西に位置している。町立中学校は1校であり、町内全域を学区としている。社会全体で少子化が進むなかで生徒数は減少傾向にあり、令和6年度は全ての学年において通常学級は4学級となっているが、令和7年度以降は学級数が減少することが見込まれる。

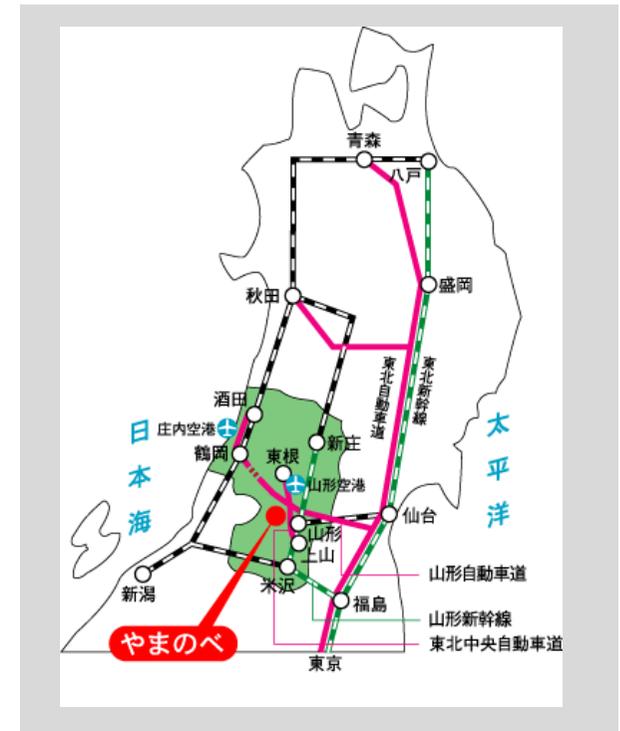
※ 生徒数推計：令和7年度 352人
→令和11年度 324人

教員の負担軽減のため、これまでも部活動における複数顧問制の導入等がなされているところである。



(課題)

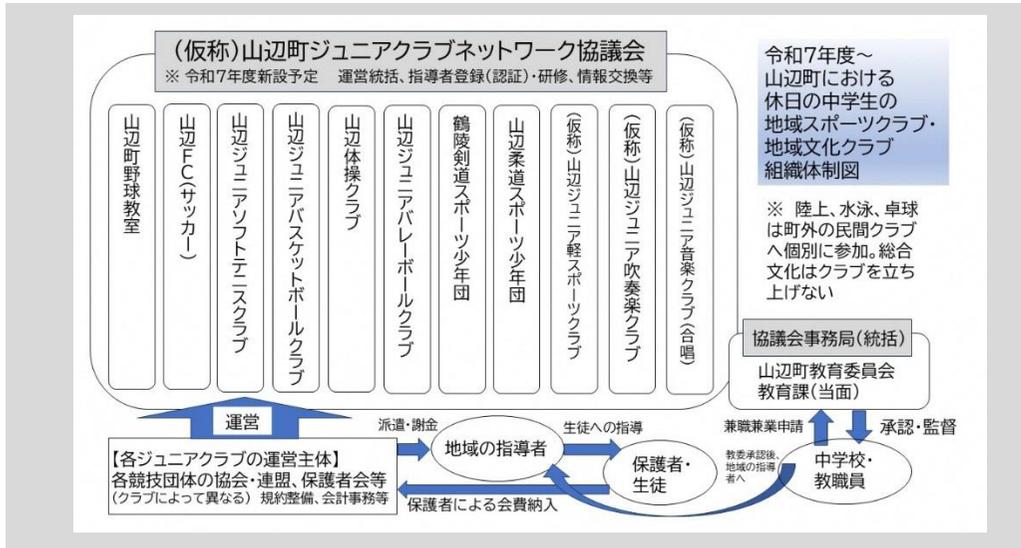
- ・当町における運動部活動（地域スポーツクラブ活動）が将来に渡って持続可能な状態を保つこと
- ・各種ハラスメントと無縁である指導者の確保



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・当町では学校体育担当課とスポーツ主管課が同一である教育課が担当

◎首長部局

・当町では学校体育担当課とスポーツ主管課が同一である教育委員会教育課が担当

年間の事業スケジュール

令和6年6月	第3回山辺町部活動の地域移行検討委員会
令和6年7月	第1回ジュニアクラブ指導者研修
令和6年8月	部活動改革に係る教職員アンケート(～9月)
令和6年10月	第2回軽スポーツ体験フェスティバル
令和6年10月	第4回山辺町部活動の地域移行検討委員会
令和6年11月	ジュニアクラブ代表者会議(ネットワーク協議会構想の説明)
令和6年11月	第2回ジュニアクラブ指導者研修
令和7年1月	部活動改革に向けた軽スポーツ(ゲートボール)体験教室

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ（体験教室の形式で）
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		既存のジュニアクラブ：7クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ（体験教室の形式で）
全体の指導者数	延べ9人	全体の運営スタッフ数	2人（NPO法人＝協議中）

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
(仮称)山辺ジュニア軽スポーツクラブ	NPO法人	ゲートボール（新）	1回	10:00～15:00	中学生中心	令和6年10月14日（月・祝）	町中央公園 屋内ゲートボール場	4人	2人（NPO法人＝協議中）	無料	—
(仮称)山辺ジュニア軽スポーツクラブ	NPO法人	ゲートボール（新）	1回	10:00～15:00	中学生中心	令和7年1月19日（日）	町中央公園 屋内ゲートボール場	5人	2人（NPO法人＝協議中）	無料	—

③その他、体験会やイベント等の開催実績

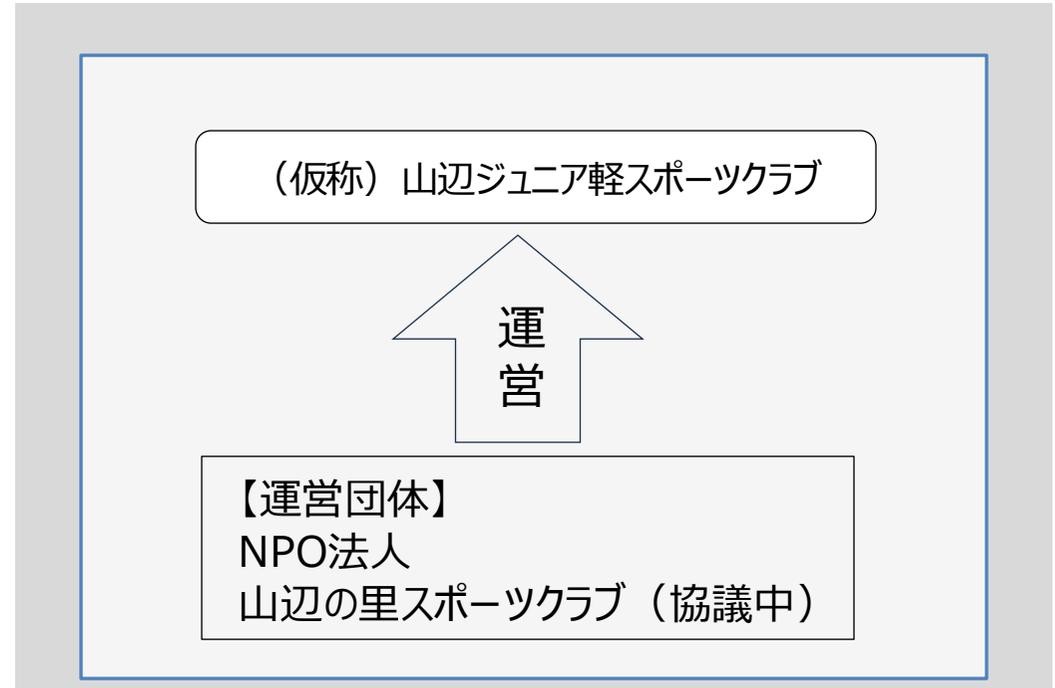
- 令和6年10月14日（月・祝） 第2回軽スポーツ体験フェスティバル（町制施行70周年記念事業と同時開催）
- 令和7年1月19日（日） 軽スポーツ（ゲートボール）体験教室（町・株式会社パストラボ・東北芸術工科大学の三者協働によるイベント「のべらぼ」と同時開催）

主な取組例

●（仮称）山辺ジュニア軽スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ゲートボール (本事業では体験教室の形で実施)
運営団体名	NPO法人 山辺の里スポーツクラブ (協議中)
期間と日数	令和6年10月14日 (月・祝) 及び 令和7年1月19日 (日)
指導者の主な属性	町ゲートボール協会
活動場所	町中央公園 屋内ゲートボール場
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等 (年額)	体験教室としては無料、 定番化した場合は未定
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり: 800円/年 指導者1人あたり: 1,850円/年

●運営体制図 (地域クラブ活動を実施する際の運営体制図 = 協議中)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

指導者：町ゲートボール協会による派遣

運営スタッフ：NPO法人山辺の里スポーツクラブ (協議中)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

部活動改革コーディネーター1名を配置し、以下の業務を担当させる。

- ① 中学校における運動部活動の改革に当たり、関係団体と中学校、教育委員会との連絡調整業務
- ② 山辺町部活動の地域移行検討委員会に係る業務
- ③ その他教育委員会が指示する業務

取組の成果

本事業実施期間中に「山辺町部活動の地域移行検討委員会」を2回開催したほか、部活動改革コーディネーターと町教育委員会担当者が関係団体や中学校へ頻繁に出向き、関係者と意見交換を行いながら「一つの町における一つの中学校」というコンパクトさを強みとしながら、当町の実情に合った部活動改革への道筋をつけることができた。

既存の中学生向けジュニアクラブを緩やかに束ねるネットワーク協議会設置構想を提示し、同じく既存の総合型地域スポーツクラブとの連携を図ることで、休日に中学生がより安心してスポーツに親しむ環境の整備に努めた。



▲第4回山辺町部活動の地域移行検討委員会（令和6年10月22日）

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・関係団体や中学校訪問
- ・会議出席
- ・研修会出席

など令和6年度は約27時間の活動実績となった。

今後の課題と対応方針

- （今後の課題）ジュニアクラブ指導者の確保と質の向上
- （対応方針）「山辺町ジュニアクラブネットワーク協議会」（令和7年度新設予定）を通じて、関係者との連携強化を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

指導者研修の実施

「ジュニアクラブ指導者研修」

第1回 令和6年7月23日（火）

- ・中学生の健全な心身の発達への理解
- ・各種ハラスメントの防止

第2回 令和6年11月29日（金）

- ・中学生を中心とした世代の健全育成と地域貢献について

登録者属性

各競技団体（協会・連盟等）から派遣された指導者

種目

野球
サッカー
ソフトテニス
体操
バレー
剣道
柔道

資格有無

各競技団体（協会・連盟等）における対応

取組の成果

指導者研修を2回開催し、それぞれ40名程度の参加を得た。

町内ジュニアクラブ指導者はもちろん、スポーツ少年団指導者や中学生保護者、興味関心をお持ちの一般の方へも広く公開した。

第1回と第2回では上記のように切り口を変えてテーマを設け、限られた時間ではあったが、ジュニアクラブ指導者を中心に理解を深めることができた。

▶ 第1回ジュニアクラブ指導者研修会
（令和6年7月23日）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

第1回（令和6年7月23日（火））

テーマ：中学生の健全な心身の発達への理解、
各種ハラスメントの防止

講師：山口 喜代美 先生（ういずグループ代表）

第2回（令和6年11月29日（金））

テーマ：中学生を中心とした世代の健全育成と地域貢献について

講師：尺野 将太 先生

（株式会社パスラボ 山形ワイヴァンズ

バスケットボールアカデミー チーフディレクター

（兼）U-15女子HC）

指導者研修の参加実績

・開催日： 令和6年7月23日（火）、令和6年11月29日（金）

・開催回数： 2回

・参加人数： それぞれ約40名

（町内ジュニアクラブ指導者、スポーツ少年団指導者、
中学生保護者、その他興味関心をお持ちの一般の方）

受講者の声（主なもの）

（第1回）

・とても貴重な今後も役に立つお話をお聞きする事ができ、とても勉強になりました。我が子もトランスジェンダーなので、山口先生がコーチ達にしっかり対応を伝えてくださり、嬉しく思います。コーチ同士話し合う時間があると皆さんの意見も聞けたのかと思います

・講師の方がおっしゃっていたように、もう少し詳しく聞いてみたいと思う話題もありました。また、特にハラスメントについてなどは、指導者に年1回以上の研修を義務付けるなど、直ぐにでも動き出して欲しいと感じています

（第2回）

・実際に尺野さんが指導、声がけしている様子を見てみたいと思いました。選手本人がどの欲求を楽しんでいるかの観察なども重要なのだと感じました。自問自答しながら、自分との約束を振り返ることで、自己肯定感が高まっていく

今後の課題と対応方針

指導者の質の向上は大変重要であるので、令和7年度も継続して開催することを計画している。研修受講後に、指導者同士の意見交換の場を設けることで、気づきの機会が持てればよいと考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

軽スポーツ体験教室を計2回開催した。

(開催日)

令和6年10月14日(月・祝)

令和7年1月19日(日)

令和6年10月開催分は複数の軽スポーツ種目に親しむことができる「軽スポーツ体験フェスティバル」として、ポッチャ、モルック、ゲートボール、ワナゲ及びフライングディスク、令和7年1月開催分は令和6年10月開催時に好評を得たゲートボールに特化して実施した。

活動の詳細

参加人数	延べ約50人(2回分の計)	指導者数	延べ9人
属性	中学生を中心とした世代を主たるターゲットとした		
具体的な内容	軽スポーツ体験教室 (令和6年10月開催分) ポッチャ、モルック、ゲートボール、ワナゲ及びフライングディスク (令和7年1月開催分) ゲートボール		
子供の声 (主なもの)	・ゲートボールは初めてやってみたが、一度体験したらまた体験がしたくなった		
関係者の声 (主なもの)	・年齢関係なく適度に体を動かさせてみんな楽しめた		
運営経費	指導者謝金について本事業を活用した。 (収支構造の検証について) このたびは体験教室として実施したため本来参加者が負担すべき費用を無料としたが、クラブとして定番化した場合はスポーツ安全保険の費用を含めて総合型地域スポーツクラブへの会費の形で相応の負担を求めるべきものとする		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

軽スポーツ体験教室を計2回開催した。

延べ約50名が参加し、普段はなかなか体験することができない軽スポーツに取り組んだ。

特にゲートボールについて好評を博し、これまで一般的には高齢者のスポーツだと思われていた種目ではあるが、中学生を中心とした世代にとっては新鮮に映ったようで、繰り返し体験をする様子が見られた。

競技性を志向しない生徒への活動の場の提供の可能性について、考察を深めることができた。

▶ 軽スポーツ（ゲートボール）
体験教室（令和7年1月19日）



今後の課題と対応方針

当初は事前申込制を計画していたが、なかなか申込者数が伸びなかった。このため、令和6年10月開催分では町制施行70周年記念事業と、令和7年1月開催分では町・株式会社パスラボ・東北芸術工科大学の三者協働によるイベント「のべらボ」とそれぞれ同時開催することで、軽スポーツを気軽に体験できる機会を設けた。特にゲートボールに限れば、種目そのものの

魅力を中学生を中心とした世代にある程度は伝えることができたが、定期的に地域スポーツクラブ活動として取り組んでいくにはある程度のクラブ会員が集まる見込みがあることと、指導者の継続的な派遣が前提となることが改めて課題として浮き彫りになった。令和7年度以降は、クラブ立ち上げのニーズを慎重に見極める必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

町内における中学生を中心とした世代の地域スポーツクラブ活動の体制整備について、野球、サッカー、ソフトテニス、体操、バレー、剣道及び柔道は、既存のジュニアクラブやスポーツ少年団が活動しており、休日の中学校の部活動の受け皿としての役割を果たせるものと考えているが、一方で競技性を志向しない生徒の活躍の場の提供という観点から軽スポーツに係るクラブ化の実証事業を行ったところである。

一方でこれまでジュニアクラブ間の横のつながりは比較的希薄であり、このたびの中学校における休日の部活動改革を契機に、各ジュニアクラブを緩やかに束ねる「町ジュニアクラブネットワーク協議会」を令和7年度に設立し、町内における中学生を中心とした世代の休日の地域スポーツクラブ活動の場としてのジュニアクラブの持続性につなげていきたい。

加えて、指導者研修を定期的に行うことで質の向上と、前述のネットワーク協議会設立によりジュニアクラブ間の連携を密にし、継続的、持続的な指導者の確保に努めていく。

●成果の評価

- 指導者研修について、受講者から概ね好評を得ることができた。
- 軽スポーツのクラブ化については、複数の課題が存在することが明らかとなった。
(ニーズの見極め、指導者の継続的な派遣の可能性等)
- 令和7年度における「町ジュニアクラブネットワーク協議会」の新設について、道筋をつけることができた。

以上のことから、本事業の活用には有用性があったといえる。

●今後に向けて

令和7年度も引き続き、指導者の質の保障、適切な指導の実施、指導者の質の確保に関する方策の検証を進めていくとともに、「町ジュニアクラブネットワーク協議会」を通じた地域スポーツクラブ活動の体制整備を引き続き行う。

2.実証内容と成果

広報資料

ジュニアクラブ指導者研修会、軽スポーツ体験教室ともにチラシ（フライヤー）を作成するとともに、FacebookやX（旧Twitter）といったSNSを活用して幅広く参加者を募った。

加えて、二次元コードを活用することで、研修会の参加申込やアンケート回答を容易に行えるようユーザビリティに工夫して取り組んだ。



山辺町 70周年 山辺町教育委員会主催 山辺町町制施行70周年記念事業
第1回 ジュニアクラブ指導者研修会

スポーツ講演会

参加無料

中学校の部活動改革に向けて

テーマ
* 中学生の健全な心身の発達への理解
* 各種ハラコメントの防止

令和6年
7月23日(火)
午後7時から
山辺町役場
3階大会議室

講師:山口 喜代美 先生
(ういずグループ代表)
※プロフィールは裏面参照

どなたでもお聴きになれます。町内ジュニアクラブ指導者はもちろん、スポーツ少年団関係者、中学生保護者、その他関心をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

参加申込み 令和6年7月21日(日)までに、右の二次元コードからお申し込みください。

この事業は、スポーツ庁委託事業である令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業(地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業)として実施します。山辺町教育委員会では、町内スポーツ・文化関係団体や中学校関係者等と連携及び協力しながら、中学校の部活動改革の取組を進めていきます。部活動改革の目的として、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築と教員の働き方改革の推進の両立を図ります。

【協力】NPO法人山辺の里スポーツクラブ
【主催・お問い合わせ】
山辺町教育委員会 教育課学校教育係 電話 023-667-1115(平日 8:30~17:15)

【第1回ジュニアクラブ指導者研修会 チラシ】

出典:山辺町教育委員会



山辺町 70周年 山辺町教育委員会主催 山辺町町制施行70周年記念事業
令和6年度第2回 ジュニアクラブ指導者研修会

スポーツ講演会

参加無料

中学校の部活動改革に向けて

テーマ
「中学生を中心とした世代の健全育成と
地域貢献について」

令和6年
11月29日(金)
午後7時から
山辺町役場
3階大会議室

講師:尺野 将太 先生
(ワイヴアランズ アカデミーコーチ)
※プロフィールは裏面参照

どなたでもお聴きになれます。町内ジュニアクラブ指導者はもちろん、スポーツ少年団関係者、中学生保護者、その他関心をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

参加申込み 令和6年11月27日(水)までに、右の二次元コードからお申し込みください。

この事業は、スポーツ庁委託事業である令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業(地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業)として実施します。山辺町教育委員会では、町内スポーツ・文化関係団体や中学校関係者等と連携及び協力しながら、中学校の部活動改革の取組を進めていきます。部活動改革の目的として、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築と教員の働き方改革の推進の両立を図ります。

【協力】株式会社バスタロ
【主催・お問い合わせ】
山辺町教育委員会 教育課学校教育係 電話 023-667-1115(平日 8:30~17:15)

【第2回ジュニアクラブ指導者研修会 チラシ】

出典:山辺町教育委員会

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【第1回ジュニアクラブ指導者研修会/令和6年7月23日】



【第2回ジュニアクラブ指導者研修会/令和6年11月29日】



【軽スポーツ体験フェスティバル・ポッチャ/令和6年10月14日】



【軽スポーツ（ゲートボール）体験教室/令和7年1月19日】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年度

協議会設置、
検討開始

既存のジュニア
クラブの活用等
について協議

令和5年度

部活動改革コー
ディネーターの
設置

関係機関との協
議継続、児童生
徒及び保護者ア
ンケートの実施

令和6年度

指導者研修、軽
スポーツ体験教
室の実施

令和7年度

ジュニアクラブネッ
トワーク協議会
設立（予定）

【協議会設置】

●**ステークホルダー**
町スポーツ協会、町スポーツ推進
委員会、町スポーツ少年団、総合
型地域スポーツクラブ、中学校等

●**経過**
令和4年10月28日（金）
「山辺町部活動の地域移行
検討委員会」設置

●**実施にあたって生じた課題**
「地域移行」に係る関係機関との
認識の共有について

●**実施内容、工夫した点 等**
既存のジュニアクラブの活用等につ
いて関係機関と協議を行った。「一
つの町における一つの中学校」の小回
りの良さを生かした。

【児童生徒及び保護者アンケートの実施】

●**ステークホルダー**
児童生徒（小学5年生から中学
2年生まで）及びその保護者

●**経過**
令和5年7月～9月に実施

●**実施にあたって生じた課題**
保護者の費用負担の増加等

●**実施内容、工夫した点 等**
二次元コードを活用し、ユーザビ
リティに配慮した。

【軽スポーツ体験教室の実施】

●**ステークホルダー**
中学生を中心とした世代

●**経過**
令和6年10月14日（月・祝）、
令和7年1月19日（日）に実施

●**実施にあたって生じた課題**
軽スポーツのクラブ化に当たっての
ニーズの見極め、指導者の継続的
な派遣の可能性等

●**実施内容、工夫した点 等**
軽スポーツ（ボッチャ、モルック、
ゲートボール、ワナゲ及びフライン
グディスク）という比較的競技性を
志向しない種目を選定して体験
教室を実施した。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

「地域スポーツクラブ活動体制整備事業」活用

令和4年度

「山辺町部活動の地域移行検討委員会」設置

令和5年度

部活動改革コーディネーター設置

児童生徒及び保護者アンケート実施

令和6年度

指導者研修実施

軽スポーツ体験教室実施

令和7年度
(予定)

「山辺町ジュニアクラブネットワーク協議会」設立

中学校における休日の運動部活動の原則取り止め

指導者研修継続実施

○部活動改革の目的：

- ①生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築
- ②教員の働き方改革の推進

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 最上町

自治体名：山形県最上町

担当課名：教育文化課

電話番号：0233-43-2013

1.自治体の基本情報

基本情報

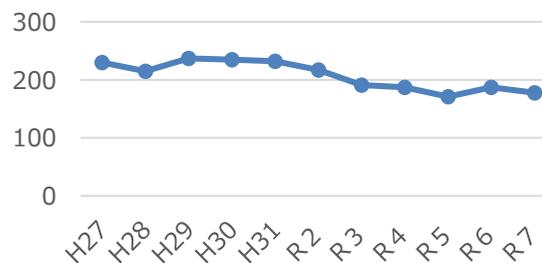
面積	330 km ²
人口	7,371 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	187 人
部活動数	9 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未実施

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当町の運動部活動は、9部活が活動している。しかし、少子化に伴い、バレーボール部が廃部となり、軟式野球部、サッカー部が他の中学校と合同チームによる活動となっている。また、小学生のスポーツ少年団を見ると、男子バスケットボール少年団が来年度定員割れを起こし、他の市町村の少年団と合同で活動するなど、本町のスポーツ部活動の実施については非常に厳しい環境が続く見込みである。また、出生数でもコロナ禍前を回復しておらず、本町の団体スポーツの将来的な存続も危ぶまれる状況にある。

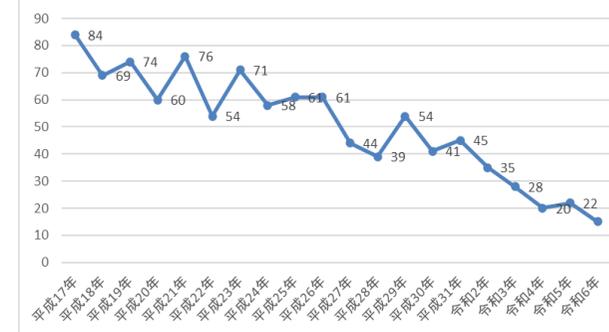
本町の課題としては、左記のとりの人口減少が顕著なほかに指導者不足も顕在化しつつある。専門的な知識を有した指導者数は年々減少しており、部活動の地域移行を進めるうえで非常に大きな課題となっている。少年団の指導者は、自分の子供が卒業すると指導者から離れてしまうことが多く、町として指導者をどう育成確保し部活動の地域移行の受け皿を確保していくか、近隣市町村とも連携しながら取り組んでいかなければならない。

最上中学校生徒総数



出典：最上町教育委員会

最上町の出生数

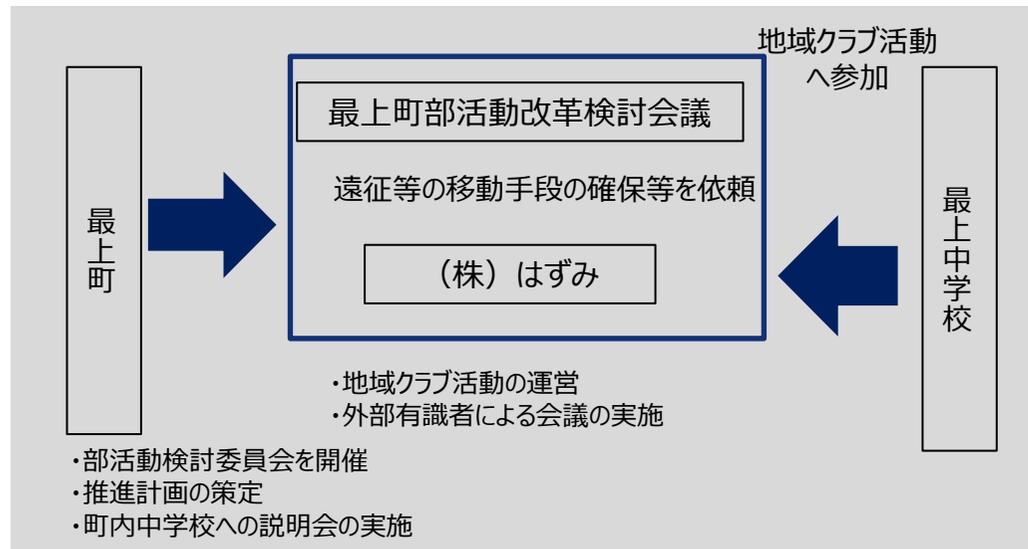


出典：最上町健康福祉課

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育文化課生涯学習室が部活動地域移行を主管。学校との連絡調整、コーディネーターの配置、指導員等の育成。

◎首長部局

- ・総務企画課財務庶務室・・・予算措置
- 町づくり推進室経営戦略室・・・ふるさと納税の検討

年間の事業スケジュール

令和6年4月	中学校にコーディネーター（生涯学習指導員兼務）を配置 第1回校内会議を開催
令和6年5月	スクールバス運行委託業者と部活動の遠征等に係る運行の打ち合わせ 各部活動のクラブ登録取りまとめおよびスクールバス運行に係る説明会および第2回校内会議
令和6年5月	スクールバスの運行開始
令和6年6月	夏休み期間に係るスクールバス使用調整会議
令和6年7月	新人戦等スクールバス調整会議
令和6年9月	第3回校内会議開催
令和6年12月	次年度スクールバス利用に関する指導者会議開催
令和7年1月	

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	8クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		8クラブ（8部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	18人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
サッカークラブ	保護者クラブ	サッカー	月8回/ 週2回	18:30 ~20:30	3年:8人 2年:3人 1年:9人	4月1日 ~3月31日	最上中学校グラウンド	3人	1人(兼務)	月会費 6,000円	中体連:部活動 その他:地域クラブ
野球クラブ	保護者クラブ	野球	月8回/ 週2回	18:30 ~20:30	3年:1人 2年:4人 1年:3人	4月1日 ~3月31日	最上中学校グラウンド・舟形中グラウンド	1人	1人(兼務)	月会費 5,000円	中体連:部活動 その他:部活動
アルペンクラブ	保護者クラブ	スキー	月8回/ 週2回(など)	9:00 ~12:00	3年1人 1年1人	4月1日 ~3月31日	旧赤倉小体育館・赤倉温泉スキー場	2人	1人(兼務)	月会費 5,000円	中体連:部活動 その他:部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

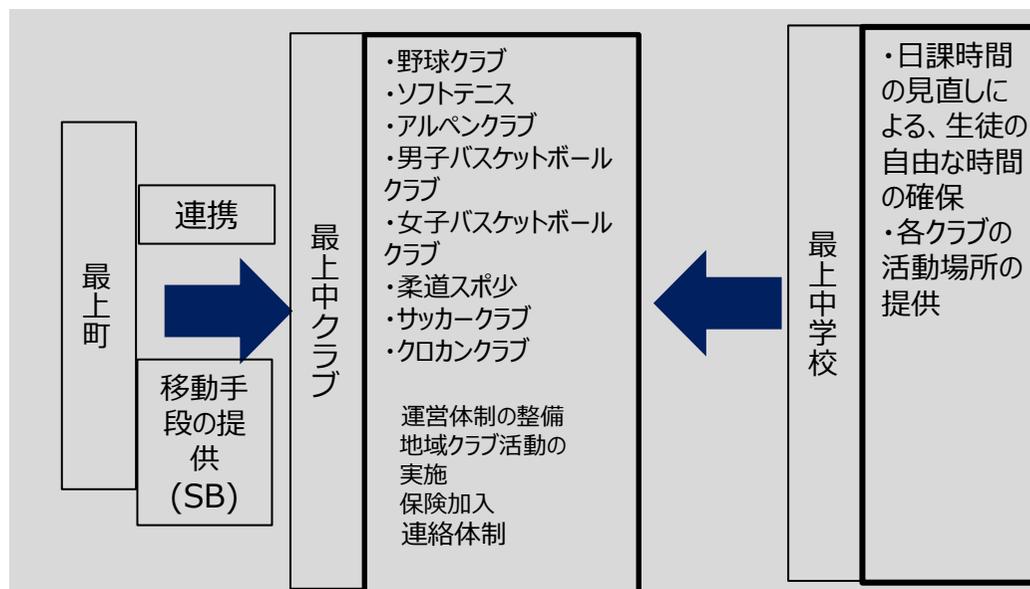
クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に(新)を付ける	実施回数	実施時 間：帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
最上テニスクラブ	保護者クラブ	ソフトテニス	月12回/ 週3回	18:30~ 20:30	3年:15人 2年:3人 1年:15人	4月1日 ~3月31日	最上中学校テニスコ 場ほか	2人	1人(兼務)	月会費 3,000円	中体連:部 活動 その他:地域 クラブ
男子バスケットボールクラブ	保護者クラブ	バスケットボール	月16回/ 週4回	18:30 ~20:30	3年:6人 2年:5人 1年:4人	4月1日 ~3月31日	最上中学校体育館	2人	1人(兼務)	月会費 3,000円	中体連:部 活動 その他:地域 クラブ
女子バスケットボールクラブ	保護者クラブ	バスケットボール	月16回/ 週4回	18:30 ~20:30	3年:6人 2年:3人 1年:7人	4月1日 ~3月31日	最上中学校体育館	2人	1人(兼務)	月会費 3,000円	中体連:部 活動 その他:地域 クラブ
最上柔道クラブ	保護者クラブ	柔道	月16回/ 週4回	18:30 ~20:30	3年:3人 2年:2人 1年:2人	4月1日 ~3月31日	最上中学校武道館	4人	1人(兼務)	月会費 5,000円	中体連:部 活動 その他:地域 クラブ
クロカンクラブ	保護者クラブ	加叻ソリ	月12回/ 週3に	18:30 ~20:30	3年:2人 2年:1人 1年:1人	4月1日 ~3月31日	旧月楯小学校体育館	2人	1人(兼務)	年額5,000 円	中体連:部 活動 その他:地域 クラブ

主な取組例

●アルペンクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	アルペンスキー
運営団体名	最上中学校クラブ
期間と日数	サッカー：4月1日～3月31日 月4回程度（など）
指導者の主な属性	SAJ公認スキーコーチ、社会人選手
活動場所	旧赤倉小学校体育館・赤倉温泉スキー場
主な移動手段	スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	アルペンスキー：60,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●コーディネーター

役割：クラブ届の管理及び関係団体等の調整、SB（スクールバス）の調整を行う

●指導者 18名

役割：各クラブの部活動外の練習での指導

●クラブ代表者 8名

役割：活動計画の作成、会費の徴収などを行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

中学校内にコーディネーターを配置し、町と学校、クラブとの連絡調整を行った。

活動をサポートするため、移動の際に必要なスクールバス(SB)の手配を町教育委員会と調整をおこなう。

取組の成果

令和5年度については、教育委員会が主導で学校や指導者への連絡、生徒へのアンケート調査等を行っていたが、本年度コーディネーターを学校内に配置したことにより、学校側の考えや教育委員会側の考え、保護者の考えなどを一元的に管理し調整することができた。特に、教職員に向けたアンケート等、より具体的に取り組むことが出来たことは、中学校に直接コーディネーターを配置したことによるところが大きい。また、学校長の強いリーダーシップのもと日課の見直しを行い、平日部活動の早い時間での終了を実現し、子どもたちや教職員の自由な時間を確保することが出来、結果子どもたちの睡眠時間の確保や勉強時間の確保等につながった。

当町の課題である、移動手段の確保について町教育委員会と連携しスクールバス(SB)を予約運行することにより、スムーズかつ安全な移動手段を確保し、練習の質の向上につながった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・各クラブの届け出を管理し、町への申請などを行った。
- ・学校内での会議や打ち合わせなどを行い、関係団体などとの調整に努めた。
- ・学校・参加者・指導者への連絡調整を実施した。

今後の課題と対応方針

- ・コーディネート業務を行う人材のスキルアップや、さらなる人材の発掘が必要である。特に、専門的指導者の確保が課題である。また、各種目ごとに専門の資格が必要な場合があり、その資格取得に向けた町としての支援策を検討していく必要がある

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

本取組みとしては、クラブの指導員となる人材を育成、確保また、その資質の向上を目的として、各種講習会の開催や、資格取得に向けた財政的支援を行い、将来に向けた持続可能なクラブ活動への移行を目指していくことを目的とした。

人材バンクの人数

県で運営している人材バンクは、本町で活動できる人数や種目が限られており、活用するに至らなかった。クラブ独自で指導員を依頼しており、その数は18名となる。

人材バンクの年齢構成

20代・・・1人
30代・・・4人
40代・・・9人
50代・・・2人
60代・・・2人
※各クラブ指導員の年齢構成

種目

・野球
・アルペンスキー
・クロスカントリースキー
・サッカー
・男女バスケットボール
・ソフトテニス
・柔道

資格有無

各種目について、最低一人の各種目別競技団体の指導員資格を所有する指導者を配置し、指導に当たっている。

取組の成果

今年度、本課題に取り組んでいく予定であったが、指導者の研修会の日程調整の際に、大会日や活動日などが各団体で重なったりするなどして確保できなかった。また、当初予算で講師の謝金などが確保できず、補正予算で調整していたさなか、7月25日に当町を大雨災害が襲い、災害復旧などに財政出動や人員がとられたことなどにより実施することが不可能となった。

今後の課題として、町の予算の確保が大前提で必要であると同時に、指導員の日程を管理し講習を行う日程の調整が必要になってくる。これらのことについては、町スポーツ協会や県、他の市町村と連携しながら予算の確保や講師の選定、日程の確保を行っていかなければならない。

町の財政状況は災害があり依然ひっ迫した状態が続いているが、子供への投資は町の未来への投資であることなどから、引き続き財政部局と連携して取り組んでいきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ少年団や、クラブとの連携強化。
地域クラブとの連携協力及び地域クラブ等の休日SBの使用および申請の補助。

取組の成果

当町の課題である交通の確保に重点を置いて取り組んだ。地域クラブが休日などに遠征や合同チームへの練習参加の際に、クラブからの申請に基づいて町教育委員会所有のSBを運行し、運行費は町教育委員会で負担することで、参加者の費用負担の軽減および安全な交通手段の確保に寄与した。その際に、利用者からの使用料等は徴していない。

夏の豪雨災害により町内唯一の公共交通機関であるJRが被災したことにより長期運休中であるため特に冬季間の移動手段の確保は、安全面などから必須であり各クラブ共に利用率が増加した。

このことにより、保護者での送迎がなくなり、参加者だけでなく保護者の負担感も低減させることができた。

スクールバス等の運行実績

- ・日数 延べ140日
- ・利用者数 約1,000人
- ・運行経路
最上中学校から各活動場所

スクールバス等の運航経費・収入

- ・運行委託費
1,386,792円
- ・利用料
参加者からのバス利用料は徴していない。

今後の課題と対応方針

総合型地域スポーツクラブの参画や町スポーツ協会等のさらなるかかわりを深め、連携していく必要がある。
今後は、総合型地域スポーツクラブが運営主体となるべく移行を進めていきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、昨年度試行した事業の課題を踏まえ実際に中学校にコーディネーターを配置し、スタートすることができた。このことは、昨年度よりも1歩前進したと考えられる。

実際に地域クラブが活動する場合、一番の課題であった移動手段の確保については一応の成果を見たところである。

他方、指導者の育成、確保や質の向上については計画はしたものの様々な要因により実施に至らなかったことは非常に残念に思う。本町だけの課題ではないが、少子化の傾向が加速しており、子供たちの特に団体スポーツを取り巻く環境は急速に悪化しており、手遅れになる前に制度設計と指導者の確保及び育成をスピード感をもって行っていかなければならない。今後、自自治体だけでは完結できない事柄も増えてくると見込まれることから、他の市町村や県など広域的に連携しながら本事業を進めていくことが大事であると考えている。

●成果の評価

懸案であった移動手段の確保について、一定の成果が見えたことは大きな前進であると考えられる。特に合同チームでの練習には移動手段の確保が大前提であるため、町教育委員会のスクールバスを使用できたことは大きい。

また、コーディネーターを配置したことにより、町、学校、地域クラブとの連携やスクールバスの申請業務などをスムーズに行うことができた。今後については引き続き現状の課題等を整理しながら一步一步進めていきたい。

本事業については、町単独で行えることと行い難い部分とがあり、広域的な連携も必要となってくると考える。

●今後に向けて

今後については、現在配置しているコーディネーターを活用し、今年度実施できなかった生徒や保護者へのアンケートなどを実施しながらよりニーズに合った地域移行を進めていきたい。本町のように人口が少なく、受け皿となりえる競技団体の少ない自治体にとっては、地域移行に向けた課題は多くある。そのため、地域クラブ移行については保護者クラブからスタートしつつ、段階を踏んでニーズ調査を行いながら丁寧に進めていきたい。また、管内市町村の動向も踏まえながら地域間連携の強化に向けても進めていきたい。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【クロカンクラブSB利用状況】



【クロカンクラブSB利用状況】



【サッカークラブSB利用状況】



【サッカークラブSB利用状況】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

最上中学校・最上町教育委員会、
総合型地域スポーツクラブ・町スポー
ツ協会・町スポーツ少年団

●経過

3回の検討委員会会議を開催し、
問題点の整理や移行に向けた制度
設計について話し合いを行った。

●実施にあたって生じた課題

受け皿団体の不足、指導者の不足、
移動手段の確保

●実施内容、工夫した点 等

- ・学校関係者へのアンケートの実施。
- ・移動手段の確保のためSBの運行。
- ・対外試合等出場のためのSB利用を優先させた。

●ステークホルダー

最上中学校・最上町教育委員会、
総合型地域スポーツクラブ・町スポー
ツ協会・町スポーツ少年団

●経過

コーディネーターを4月から中学校内
に配置して業務にあたった。

●実施にあたって生じた課題

少子化の加速による団体部活動の
合同チーム化の増加、受け皿・指導
者不足

●実施内容、工夫した点 等

合同チームを組むクラブなどに対して、
移動手段の確保のためのSB運行お
よびその申請の補助を行った。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
町教育委員会	検討委員会の設立	コーディネーター（兼務）の配置	指導者の育成確保及び質の向上および、保護者生徒へのアンケートの実施	休日部活動の完全地域移行	アンケートなどを実施し課題点を抽出し改善を図る
最上中学校	検討委員会への参画およびクラブ化に向けた教職員アンケートの実施	校内会議及び町教委との連携、クラブ化への指導助言	前年度を踏まえた教職員アンケートの実施	休日部活動の完全地域移行	教職員の意識アンケートの実施及び町教委との情報共有
クラブ	クラブ登録に向けた保護者説明会	クラブ登録の実施、運営	前年度のクラブの運営の課題等の整理及び改善	クラブ運営での休日活動の完全実施	改善点を踏まえたクラブ活動の実施

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県舟形町

自治体名：山形県舟形町

担当課名：舟形町教育委員会教育課

電話番号：0233-32-2379

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	119.04 km ²
人口	4,647 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	98 人
部活動数	6 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	ガイドライン策定済

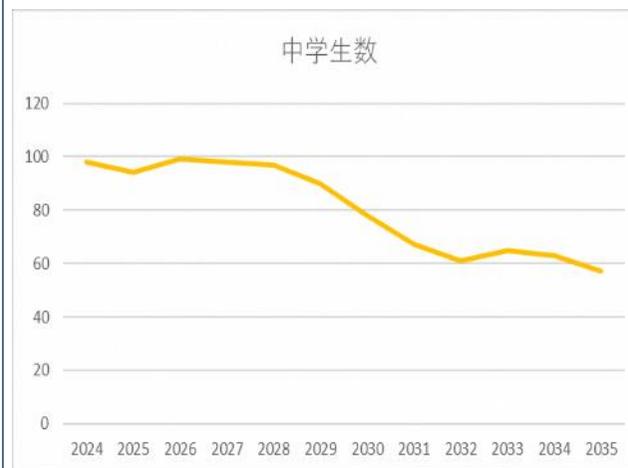
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当町では野球、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、サッカーの5種目の運動部活動に加え、文化部である吹奏楽の計6種目を部活動として組織している。

生徒数の減少に伴う学級数の減少により、教員の数も減少することとなり、各部に複数顧問を配置することが不可能となったことから、令和4年度の舟形中学校部活動再編検討委員会で卓球部を令和6年度で廃部とすることを決定し、現在に至っている。運動部活動はスポーツ少年団と連携した活動を行っており、スポーツ少年団の指導者が部活動の指導も担うなど、一貫した指導をしてきている。

地域展開するにあたり、まずはサッカー部をモデルとして事業を進めていくこととしている。舟形中学校のサッカー部は、「学校部活動」としての一面と地域の「サッカークラブ」としての一面もあり、地域展開のモデルとしても最適であると考えられる。さらには、他の部活動でも「部活動指導員」を配置し、教員の休日の部活動の負担軽減を図りながら移行することとしている。

課題として、持続可能な体制整備の工夫、活動財源の確保、指導者の質・量の確保、学校施設の効果的な運用体制の構築があげられる。



部活動の推移

年度	常設部活数	種目等
R4	7	野球、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン吹奏楽
R6	6	野球、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、バドミントン、吹奏楽

2.実証内容と成果

運営体制・役割



舟形町 中学校部活動の地域展開に向けて 「わかあゆクラブ(仮称)」の設立



舟形町（事務局）

「わかあゆクラブ」

舟形町は、「中学生のスポーツ・文化活動を支える支援」をします。

「わかあゆクラブ」の事務局を舟形町教育委員会内に設置し、次の事務を行います。

- ① 休日のバス運行に関すること
- ② 「舟形町青少年スポーツ・文化活動地域支援事業」に関すること
- ③ 指導者の資質向上に関すること 他



わかあゆクラブ

クラブ活動

- ・クラブ活動は、休日に行います。
- ・指導は、クラブの指導者が行います。
- ・中体連・中文連主催以外の大会等にはクラブとして出場し、保護者やクラブの指導者が引率します。



各種目クラブ

☆クラブ種目

- ・野球 ・バレー ・サッカー ・テニス
- ・バドミントン ・吹奏楽

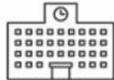
☆各クラブの運営

- ① 休日の練習及び練習試合の調整（施設やスクールバスの予約）
- ② 大会（中体連主催以外）参加
- ③ 活動費の設定
（備品・消耗品・大会参加費・選手登録・保険加入等）



部活動

- ・部活動は、平日のみ行います。
- ・指導は、教員または部活動指導員が行います。
- ・中体連や中文連（吹奏楽連盟等）主催の大会に、学校単位で出場する際は顧問が引率します。



◎教育委員会

・教育委員会内に、「休日の部活動地域展開事務局」を組織し、内部に「部活動地域展開コーディネーター」を配置し、地域展開の在り方を検討していく。部活動指導員配置促進事業との調整を実施する。

◎首長部局

・教育委員会と協議し、施策実現に向けた予算措置を行う。

年間の事業スケジュール

令和5年度	・情報交換会2回開催 学校・保護者 ・部活動改革検討委員会開催
令和6年5月	情報交換会 各部活動ごと
令和6年7月	第2回部活動改革検討委員会
令和6年7月	情報交換会 各部活動ごと
令和6年8月	部活動地域展開先進地視察
令和6年11月	第3回部活動改革検討委員会
令和6年11月	情報交換会 部活動代表者会
令和7年1月	地域移行に関するアンケート 小学5・6年生及び保護者 中学1・2年生及び保護者 教員
令和7年1月	第4回部活動改革検討委員会
令和7年2月	事業完了報告書・成果報告書 等の作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	6 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

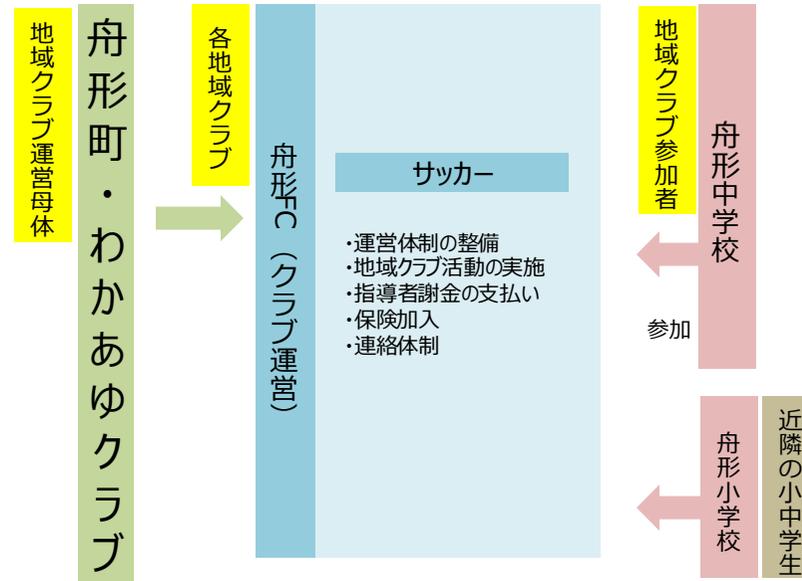
クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
舟形FC	地域クラブ	サッカー	計138回 月平均13.8回	平日 18:30~ 20:30 休日 8:30~ 10:30	3年生 6人 2年生 6人 1年生 2人	4/6~ 1/30 火・木・土	舟形中学校 他	6 人	2 人 (内、兼務 1 人)	月会費 3,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

主な取組例

●舟形FCクラブ活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	舟形FCクラブ
期間と日数	4月6日～1月31日 月14回程度
指導者の主な属性	公務員・会社員・自営業
活動場所	舟形中学校 他
主な移動手段	町スクールバス・保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	36,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年(対象外経費) 指導者1人あたり：1,850円/年(対象外経費)

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 指導者
 - 役割：施設管理、指導、保護者との連絡、事故時応急処置等を行う
- 保護者 1～2名
 - 役割：指導サポート、活動見守り、総合型地域スポーツクラブとの連絡等を行う
- 事務局 1名
 - 役割：施設申請、活動状況把握、緊急時対応、学校・行政・各団体との連絡・調整等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・コーディネーターを配置し、関係者へのヒアリングを実施。
- ・学校、行政、クラブの三者調整を図る。
- ・部活動改革担当者会議及び研修会への参加。

取組の成果

- ・地域展開を実施するにあたって、「舟形町わかあゆクラブ」を設立し、町としても様々な支援を継続しながら子どもたちのスポーツ・文化活動を応援していく。今年度は、そのモデルとしてサッカー部を実証事業として取り組んだ。
- ・地域展開に向けた全体的な取り組みとして、学校との情報交換会、各部活動の全保護者を対象とした情報交換会を複数回開催した。各部活動が抱える問題を把握し、今後の地域展開に関する方向性を探ることができた。
- ・町として、子どもたちのスポーツ文化活動を今後も継続して応援する方策を工夫しつつ、地域展開していきたい。
- ・舟形町の地域展開モデルクラブのサッカークラブである「舟形FC」については、舟形町の中学生のみならず、小学生も一緒に活動を行うことによって、クラブとしての継続性等の問題解決を図ることができている。また、加入者について、舟形町に限定することなく地域全体としたことによって、さらに継続性が高まった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・地域展開に向けた組織立案・会議の開催
- ・クラブ事務局との打合せ
- ・最上地区部活動改革担当者研修会
- ・部活動顧問等へのアンケート調査
- ・学校・顧問・指導者・保護者代表とのヒアリング
- ・部活動指導員に関する事務
- ・休日活動におけるスクールバスの運行手配

今後の課題と対応方針

- ・クラブ活動を行う際の細かなルールの策定を情報交換会をもとに行うことができたが、実際に運用していく中で、再度詳細について検討していく。
- ・人口減少による少子化で、希望するスポーツを体験できないという地域間格差を解消する方策を地区全体、あるいは県全体で検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・スポーツ団体、保護者等を対象に指導者研修会を実施。
- ・部活動指導員及び外部コーチを委嘱する際に、学校と連携して研修会を実施。
- ・トレーニングセンターや審判講習会に派遣。

部活動指導員の人数

13名

年齢構成

30代	2名
40代	8名
50代	2名
60代以上	1名

種目

- ・バレー
- ・サッカー
- ・野球
- ・ソフトテニス
- ・バドミントン

取組の成果

- ・指導者の横のつながりを大切にすることによって、子どもたちの思いを大切に活動全体として保証することができた。
- ・指導者研修として、日本スポーツ協会が推進している「No!スポハラ」について説明及び理解促進を行うことができた。また、町独自の研修資料で研修を行い、指導者の資質向上に取り組んだ。指導者資格については、各競技団体の指導資格を取得するよう検討を進めていく。
- ・活動の指導者については、各部ごとに1～2名程度を部活動指導員として依頼し、活動日は部活動顧問を休みとすることができた。しかし、平日の指導内容と休日の指導内容に違いが無いように留意するために、顧問と部活動指導員の連携をさらに密にしていく必要がある。
- ・指導者の量的な確保に向けて、長期的な展望を持って町全体で取り組んでいくことを確認できた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・学校施設の使用に際し、学校開放の拡充などの検討。
- ・学校施設を利用して活動する際の申請の流れを明確化。
- ・中学校と教育委員会の連携及び利用団体との調整。

取組の成果

- ・学校側の意向を踏まえた活動時間と活動場所を設定することにより、大きなトラブルもなく実施することができた。
- ・学校施設のため、使用ルールや時間の確認を徹底したことによって、スムーズな活動につながった。

今後の課題と対応方針

○学校施設借用に関する申請手続きについて

・今後は、ICT機器を使ったスマート申請を検討し、よりスムーズな申請手続きなるよう工夫していく。また、鍵についても、リモートで解錠できるシステムの導入を検討していきたい。

○施設利用に関する利用等について

・現在では、舟形町に属する地域クラブが施設を利用して活動する場合はその利用料を減免している。しかし、他地区からの構成員が増えた場合の利用料徴収のあり方について今後検討していく。

課長						
舟形町立舟形中学校 校地校舎使用簿						
使用施設	<input type="checkbox"/> 体育館	<input type="checkbox"/> 音楽室	<input type="checkbox"/>			
使用目的						
使用日時	日 令和 年 月 日	午前・午後	時	分		
使用設備 用具等						
団体名						
使用責任者	住所:					
	氏名:					
	TEL:					
使用人数		男	女	計	合計	
	中学生以下					
	高校生以上					
照明使用	午前・午後	時	分より	午前・午後	時	分まで
暖房冷暖使用	午前・午後	時	分より	午前・午後	時	分まで

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域展開に関する情報交換会を様々な形態で開催したことによって、それぞれの部活動が抱える問題点や思いを把握したうえで地域展開の方向性を検討することができた。舟形町としては、地域展開された活動は基本的には受益者負担で行うこととしているが、子どもたちの「スポーツ・文化活動をしたい」という思いを継続して応援することが大切であると考えている。

しかし、人口減少・生徒数減少という大きな流れの中で町単独では解決できない部分もあるので、他との連携も視野に入れていく必要がある。

●成果の評価

今年度から実証事業として実践し、「生徒の主体性を育む活動を支援する」とこと「教員の時間外勤務時間の削減」の2点を大きな課題として取り組んできた。

- 「生徒の主体性を育む活動を支援する」については、生徒が主体的に参加できるスポーツ・文化活動環境の構築として、「舟形町中学校地域スポーツ・文化クラブの設立」し、活動を行うとしている。これは、町として支援を継続するための組織であるが、「スポーツ・文化活動」の環境構築は、町の施策として取り組んでいる戦略人口の増加対策と共にさらに広げていきたい。
- 「教員の時間外勤務時間の削減」については、「教員の働き方改革が一気に進むと思われる。一番大切にすべき、授業に力を入れられる。」とアンケートで回答しているようにメリットを感じている教員が多い。ただ、一貫した指導体制をどのように構築していくかが課題でもある。

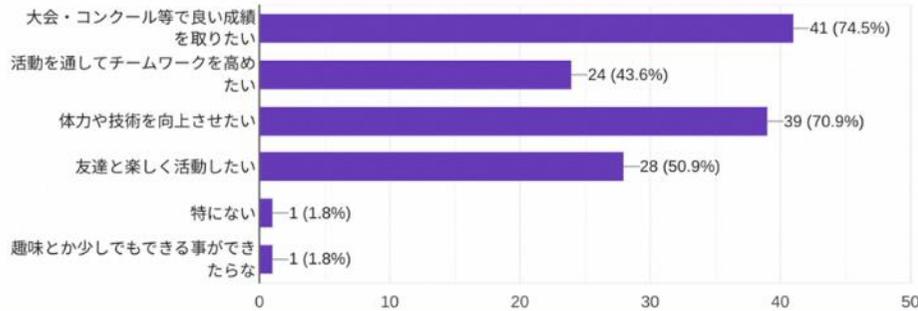
●今後に向けて

地域展開は、令和7年度を移行期間、令和8年度から完全実施としている。今後は、クラブ活動への参加者の減少や指導者の高齢化等の問題を解決しながら、持続可能なクラブ体制を構築することができるようさらに取り組みを進めていく。また、休日ばかりではなく、平日も早期に地域展開できるよう改革を進めていく。

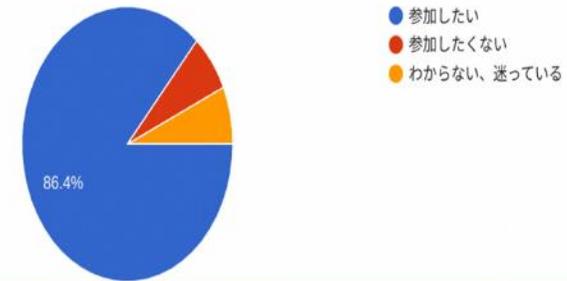
アンケート結果

●アンケート結果 中学1・2年生

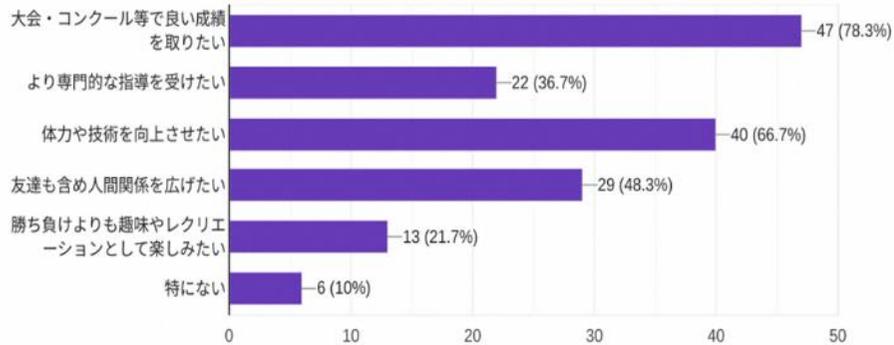
4. あなたは、どんな目標や目的を持って学校の部活動をしていますか。



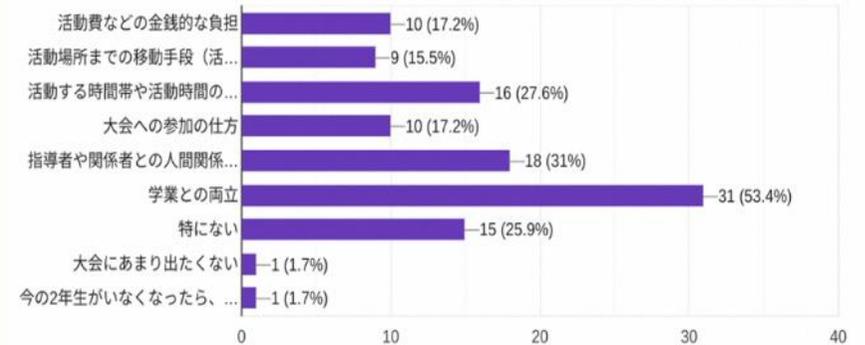
9. あなたは、これからも（またはこれから）休日に、学校の部活動に参加したいと思いますか。



13. あなたは、これからの学校の部活動に、どのようなことを期待しますか。



14. あなたは、これからの学校の部活動に、どのような心配がありますか。

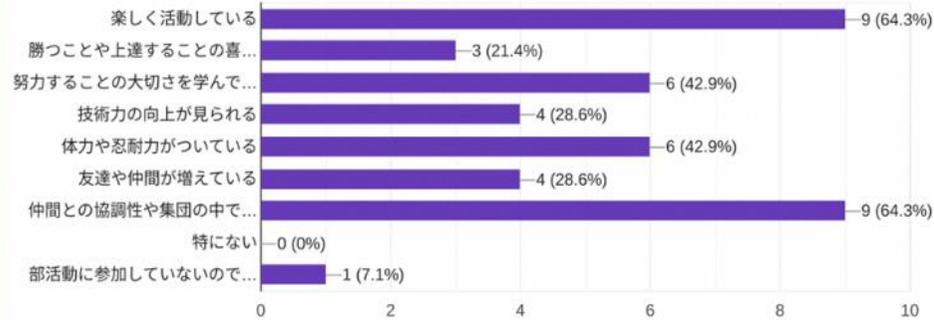


2.実証内容と成果③

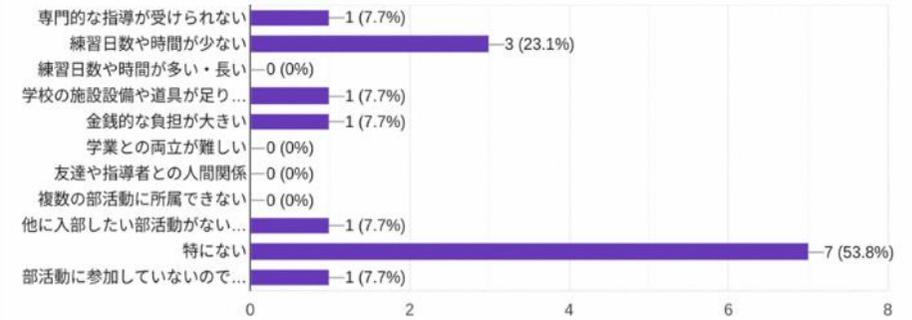
参加者アンケート結果②

●中学1・2年生 保護者の声

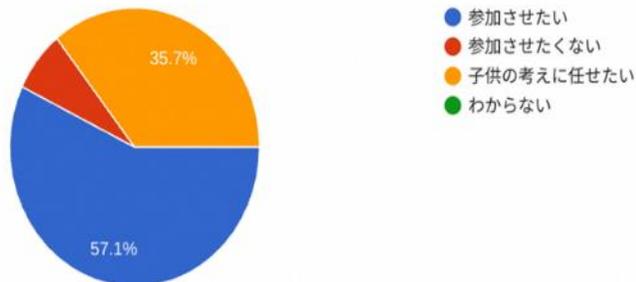
3. お子様在学校の部活動に加入している中で、良かった点はどのようなことですか。



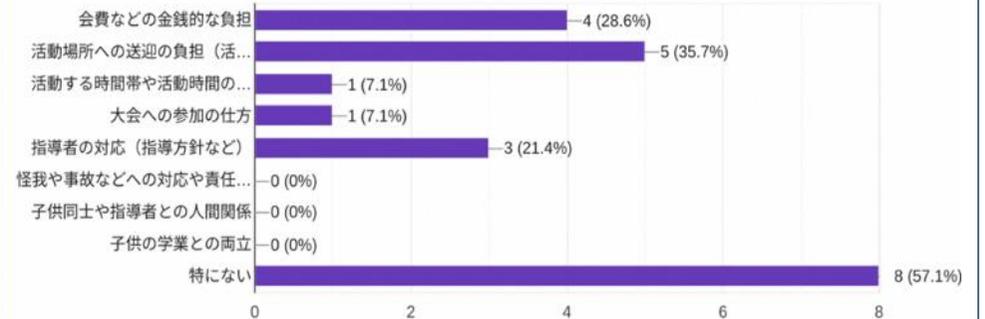
4. お子様在学校の部活動に加入している中で、気がかりな点はどのようなことですか。



8. 学校の休日に、学校の「部活動」に参加させようと思いますか。



11. 学校の「部活動」を行う上で、気がかりな点はどのようなことでしょうか。



2.実証内容と成果④

活動写真

舟形FC

サッカークラブ



プロサッカー選手による指導で部活動



クラブコーチによる指導でクラブ活動



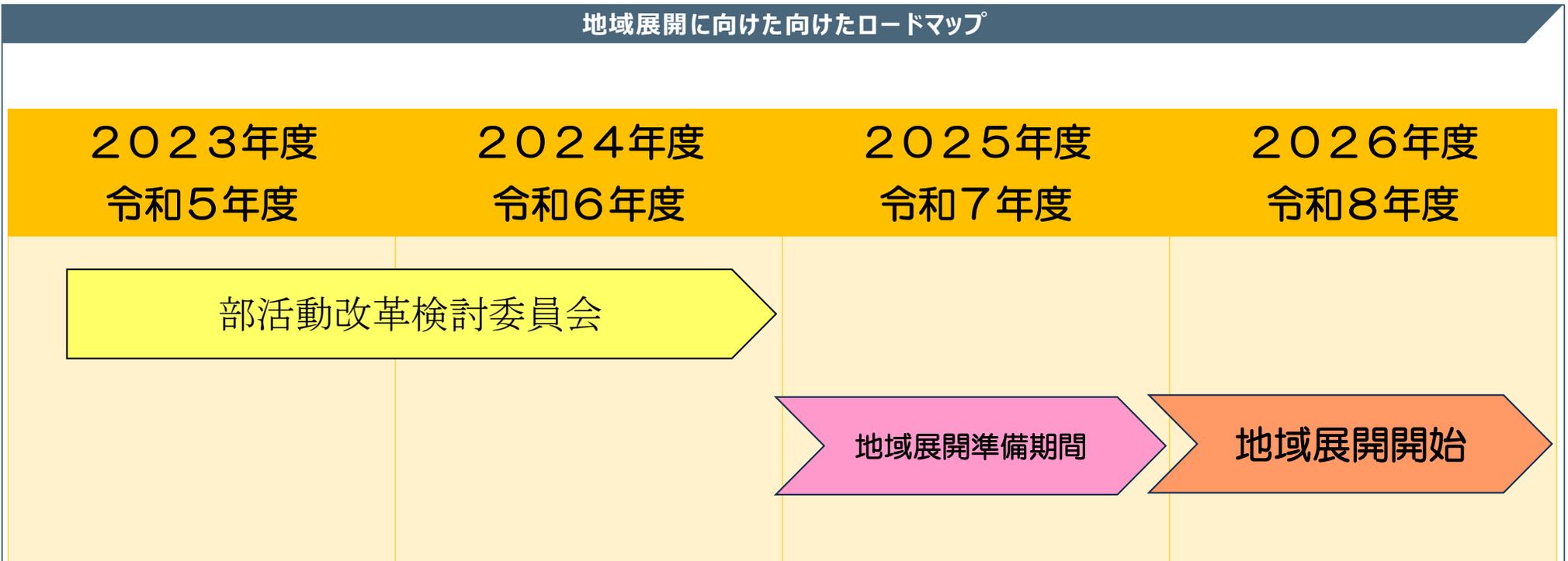
U13～15年代でのクラブ活動



他地区や様々な年代でのクラブ活動

3. 今後の方向性

地域展開に向けたロードマップ



【目指す姿】

- 学校の働き方改革を推進
- 学校部活動を地域に展開し、地域全体のスポーツ文化芸術を振興のチャンスに
- 少子化のなかでも持続的にスポーツ・文化活動ができる環境を整備し、子どもたちの「やってみたい」の選択肢を地域で提供

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 鮭川村

自治体名：山形県鮭川村

担当課名：鮭川村教育委員会教育課

電話番号：0233-55-3051

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	122 km ²
人口	3,659 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	89 人
部活動数	4 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	ガイドライン策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当村では野球、バレーボール、バドミントンの3種目の運動部活動に加え、文化部である吹奏楽が部活動として活動している。

少子化の影響を受け、令和2年度にソフトボール部、サッカー部、柔道部を廃部とし、個人種目であるバドミントン部を創設し現在に至っている。バドミントン部は平成27年にスポーツ少年団を立ち上げ、スポーツ少年団の指導者が部活動の指導も担い、一貫した指導をしてきたことにより、近年は県の代表として常に上位大会出場を果たしている。

また、平成22年に総合型地域スポーツクラブ「さけがわ友遊クラブ」を設立し、立ち上げ当初より部活動、スポーツ少年団のジュニア世代を会

員として受け入れ、活動の補助を行っており、学校、行政、総合型地域スポーツクラブ間の連携は密に取られており良好な関係が構築されている。

地域展開するにあたり、中学校から委嘱された「部活動指導員」がクラブの外部コーチを担っていただくことにより、学校、生徒、保護者に混乱させることなく活動が継続できている。

課題として、クラブ活動時のスクールバスの利活用、活動財源の確保、広域的な活動を進める上での市町村間の壁が挙げられる。スクールバスの利活用や財源については、令和7年度以降新たな取組を行っていく。

鮭川中学校生徒数推移



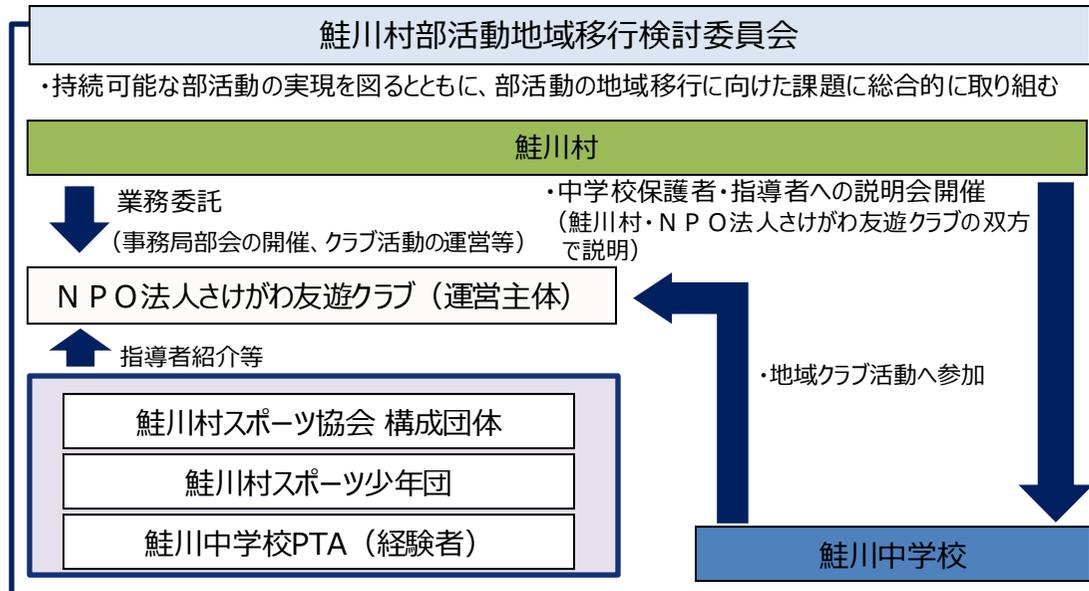
部活動の推移

年度	常設部活動数	種目等
H28	6	野球、サッカー、ソフトボール、バレーボール、柔道、吹奏楽
R2	4	野球、バレーボール、バドミントン、吹奏楽

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・鮭川中学校とNPO法人さげがわ友遊クラブ間の調整や助言・指導を行う。併せて、部活動指導員配置促進事業との調整を実施する。
- ・施策実現に向けて、総務課(財政部局)と協議を行う。

◎首長部局

- ・教育委員会と協議し、施策実現に向けた予算措置を行う。

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回事務局打合せ
令和6年6月	部活動顧問等アンケート
令和6年7月	第1回部活動地域移行検討委員会
令和6年 8月6日～	部活動実証事業期間開始
令和6年9月	第2回事務局打合せ
令和6年11月	第3回事務局打合せ
令和6年 11月30日	部活動実証事業期間終了
令和6年 11月～12月	学校・顧問・指導者・保護者代表とのヒアリング
令和6年12月	第2回部活動地域移行検討委員会
令和7年1月	事業完了報告書・成果報告書等の作成
令和7年2月	第4回事務局打合せ(予定)
令和7年3月	第3回部活動地域移行検討委員会(予定)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	5 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
野球クラブ	総合型クラブ	軟式野球	計30回 月平均7.5回	平日 18:30~ 20:30 休日 8:30~ 10:30	2学年 2人 1学年 5人	8/6~ 11/30 火・木・土	鮭川中学校 他	2 人	2 人 (内、兼務 1 人)	年会費 3,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
バレーボールクラブ	総合型クラブ	バレーボール	計45回 月平均11回	平日 18:30~ 20:30 休日 13:30~ 16:30	2学年 7人 1学年 2人	8/6~ 11/30 火・木・土	鮭川中学校 他	1 人	2 人 (内、兼務 1 人)	年会費 3,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
バドミントンクラブ	総合型クラブ	バドミントン	計26回 月平均6.5回	平日 18:30~ 20:30 休日 8:00~ 11:00	2学年12人 1学年 7人	8/17~ 11/30 火・木・土	鮭川中学校 他	2 人	2 人 (内、兼務 1 人)	年会費 3,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

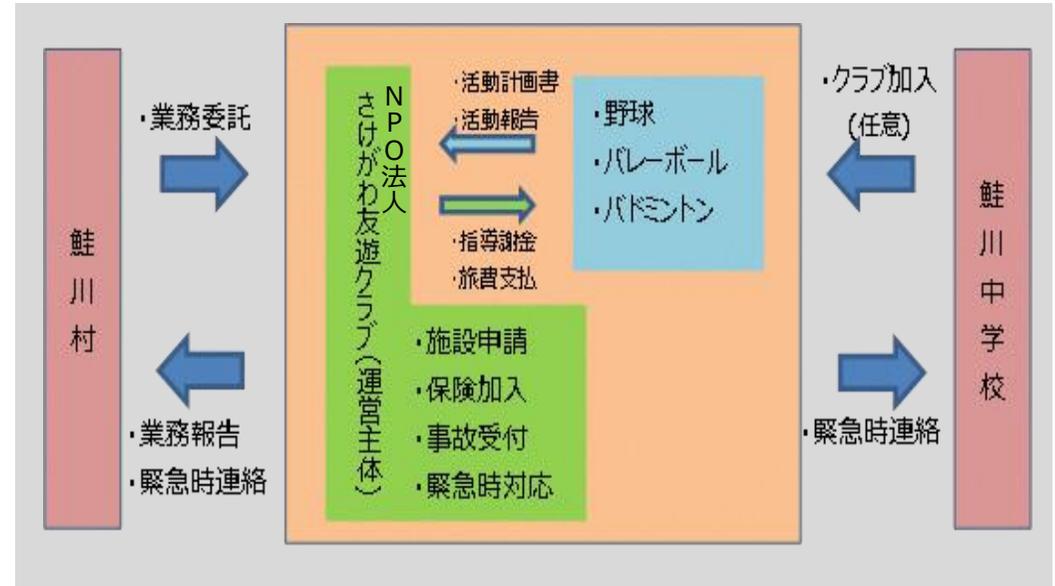
2.実証内容と成果

主な取組例

● NPO法人さげがわ友遊クラブ活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、バレーボール、バドミントン
運営団体名	NPO法人さげがわ友遊クラブ
期間と日数	野球：8月6日～11月30日 計30回 バレーボール：8月6日～11月30日 計45回 バドミントン：8月17日～11月30日 計26回
指導者の主な属性	公務員・会社員・自営業
活動場所	鮭川中学校 他
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	3,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年(対象外経費) 指導者1人あたり：1,850円/年(対象外経費)

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 指導者
 - 役割：施設管理、指導、保護者との連絡、事故時応急処置等を行う
- 保護者 1～2名
 - 役割：指導サポート、活動見守り、総合型地域スポーツクラブとの連絡等を行う
- 事務局 1名
 - 役割：施設申請、活動状況把握、緊急時対応、学校・行政・各団体との連絡・調整等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・コーディネーターを配置し、関係者へのヒアリングを実施。
- ・学校、行政、総合型スポーツクラブの三者調整を図る。
- ・部活動改革担当者会議及び研修会への参加。

取組の成果

・アンケートの回答からでは読み取れないそれぞれの立場の意向や見解を把握することができた。学校・顧問・指導者・保護者の立場で現状や課題等の今後の活動に対する要望をヒアリングし、活動に関する具体的な措置を講じられるきっかけとなった。ヒアリングを行った際に、それぞれの立場から今後のクラブ活動を実施する上で細かなルールを確認する必要があるとの意見があった。令和8年度の移行完了に向けてルール化の必要事項の整理を行い、部活動ガイドラインの見直しを図り、関係者への周知・情報の共有を進める必要がある。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・月1～2回行政担当者、クラブ事務局との打合せ
- ・最上地区部活動改革担当者研修会
- ・部活動顧問等へのアンケート調査
- ・学校・顧問・指導者・保護者代表とのヒアリング

今後の課題と対応方針

関係者へのヒアリングを実施したことで、クラブ活動を行う際の細かなルールの整備・統一化、共有を早急に進めなければならないことが分かった。併せて、施設を利用する際の規則についても再度確認が必要であった。

また、部活動改革担当者等との広域的な意見交換の場はあったが、管内の各種連盟・協会との意見交換の機会がなかったため次年度は意見交換の場の創出を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・村内で活動する全てのスポーツ団体、保護者、教員等を対象に指導者研修会を実施
- ・中学校長による部活動指導員及び外部コーチを委嘱する際に対象者との個人面談を実施

取組の成果

- ・技術的な指導については、個別にスキル向上を図りながら行ってきたが、子どもに対する接し方や「指導法」に関する基礎知識の向上につながった。併せて、保護者の子どもに対する接し方として一方的な発言ではなく「双方向」のコミュニケーションが大事であることに気付かされたという反応が多くあった。研修会後のアンケートでも、単なる技術向上のためだけの指導方法ではなく、普段の子育てに通じる教えがあり、今後の子育てや子どもとの接し方に多くの気づきがあったとの声をいただいた。
- ・講義後、日本スポーツ協会が推進している「No!スポハラ」について説明及び理解促進を行った。指導に関わらない保護者にとっては初めて耳にする方が多かったようだが、ハラスメント防止がいかに重要であるか理解していただく機会となった。
- ・中学校長による外部コーチとの個人面談については、今までは書類の提出のみで委嘱していた。しかし、部活動顧問が不在時も指導する機会が多いことから、中学校長が自ら指導者とのヒアリングを行い、指導に関しての留意点を伝えていただいている。今後のクラブ活動を行ううえで、単なる技術力向上のための指導ではなく、生徒の「教育的指導」も担っている自覚を持ち生徒に接していただくことが望ましいため、個人面談をしていただくことは非常に効果的なことである。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

今年度指導にあたっていただく指導者には「【指導法】～効果的な指導を行うために～」をテーマに元日本サッカー協会47チーフインストラクターの高橋氏を講師にお招きし研修会を開催した。指導ポイントの示し方として、①はじめにまとめて示す②行動を実施する直前に手順を示す③行動が終わった後に確認する④小出しにする、ことを実践するよう実例を挙げながら紹介された。

- ・開催日： 令和6年3月6日
- ・参加人数： 39人(内指導者10人、保護者18人、教員1人
クラブスタッフ10人)

受講者の声

- ・指導の立場ではないが、普段の子どもに親として声を掛けるとき今日の聞いたことを気を付けながら言葉掛けをしていきたい。
- ・効果的な指導を行うために、その子ひとりひとりにあった指導を模索しながらたくさん悩み考えていただいていること、とてもありがたく感じた。
- ・大変分かり易い内容で、普段気付かないようなこと(子どもの気持ち等)に気付かせてもらった。
- ・大変勉強になった。教えてもらった「捉え方変換」を意識して日頃から自分も子どもに対して「無理だ」と思わず挑戦しようと思った。

今年度の研修会内容

令和6年7月25日に発生した豪雨災害の影響により実証期間内での開催には至らなかったが、令和7年度のスポーツ少年団活動及び部活動・クラブ活動の指導にあたってもらう指導者に向けて研修会を下記のとおり実施予定である。講師に山形県部活動改革アドバイザーを担っている池田めぐみ氏を迎える予定となっている。池田氏は、コンディショニングを通じて正しく機能的に身体を使う方法を指導者のみならず保護者へも伝えてもらう予定となっている。昨年度は「指導法」に力を入れたが、今年度は日頃のコンディショニングについて学んでもらう機会を提供する。

- ・開催日： 令和7年3月3日
- ・テーマ： 「けがをしないための子どもたちの身体づくり」
- ・参加予定者： 指導者、保護者、クラブスタッフ等

今後の課題と対応方針

・これまで、元校長による子どもの特性、管理栄養士による食育についての講義を取り入れて開催してきたが、保護者は毎年変わるため一貫した研修会を受講することができない状況にある。今後は年度内に複数開催や、半日、または一日研修を企画し、さらに、学校教育としての指導方法、生徒の精神面のフォローなど、技術指導以外のスキルを向上させていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 村スポーツ協会やスポーツ少年団との連携を図るため、関係役員やスポーツ少年団本部長・単位団長・指導者から鮭川村部活動地域移行検討委員会の役員として参画いただいた。また、コーディネーターによるヒアリングを実施。
- 関係団体等と連携を図りやすいため、村スポーツ推進委員をコーディネーターとして配置。

取組の成果

- 会議やヒアリングを通して、今後の部活動の中心となるスポーツ少年団の指導者や保護者に対する制度や本村の取組及び今後の見通しを周知することができた。
- 鮭川村部活動地域移行検討委員会において、コーディネーターをファシリテーターとしてグループワークを行ったことにより、行政だけの会議ではなかなか挙がらない課題等を確認することができた。また、当日に回答が難しかった内容については、後日取りまとめて回答することで制度や課題への理解が深まった。



グループワーク実施状況

関係団体との連携実績

- ・鮭川村部活動地域移行検討委員会の実施
- ・コーディネーターによる関係団体へのヒアリング

コーディネーターの配置実績

- ・鮭川村部活動地域移行検討委員会への参加
- ・ファシリテーターとしてのグループワークの実施
- ・スポーツ少年団等の指導者や保護者とのヒアリング

今後の課題と対応方針

- 鮭川村部活動地域移行検討委員会への継続的な参画をいただき、課題解決に向けて協議を重ねていく必要がある。
- 令和7年度も引き続きコーディネーターを配置し、ヒアリング等を通してより密な連携を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

・鮭川村部活動地域移行検討委員会においても、人口減少や少子化に対応し、今後もスポーツ・文化活動を継続していくためには、村内において小中一貫した面的な取組と他市町村と連携した広域的な取組が重要であることを確認した。また、コーディネーターと県の部活動改革研修会や先進地視察に参加し理解を深めた。

各自治体の役割

- ・研修会等に参加し情報収集
- ・管内市町村の情報収集
- ・会議等の場で関係者に情報の共有

移動手段

- ・本村のスクールバス条例や利用状況を再確認し、令和7年度にルール化が必要な事項の洗い出しを実施

事務局運営の方法

- ・県の部活動改革研修会に参加し、管内市町村と広域的な取組の事務局の在り方について検討を実施

取組の成果

- ・各市町村との意見交換により、管内市町村においても同様にチームが組めない状況であることが確認できた。
- ・広域的な取組を進めるためには、各市町村の部活動改革に対しての足並みを揃えていくことが重要であり、今後も継続的な協議の場が必要なことが確認できた。

今後の課題と対応方針

【各自治体の役割】

受け皿となる事務局に対しての活動財源の確保が必要となる。

【移動手段】

管内において公共交通機関による市町村間の移動は困難であるため、各市町村のスクールバスに関する条例の見直しが必要である。併せて、新たな移動手段として受け皿に対するバス購入費の補助等も検討していく。

【事務局運営の方法】

管内を取りまとめることが可能な事務局の設置を検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

本村では、実行委員会を設立し、運動の習慣化・多様化と地域の交流を目的に多種目の軽スポーツを楽しむイベント「さけすぼ祭」を令和4年度から開催している。

鮭川村・鮭川村教育委員会・鮭川村スポーツ協会が共催、鮭川小中学校及びNPO法さけがわ友遊クラブは後援となっている。当日のイベントでは、ニュースポーツをはじめ様々な種目や小学生を対象とした体験会の実施も予定していた。今年度は新たな取組として鮭川中学生自らがブースの企画運営・イベント全体の運営に関わることで準備を行っていた。

しかし、令和6年7月25日に発生した豪雨災害を受け、令和6年8月21日に第2回実行委員会を開催し、今年度の開催の中止を決定した。

事業スケジュール

令和6年5月	鮭川村スポーツ協会評議員会 実施確認 鮭川村スポーツ推進委員会 内容検討
令和6年7月	鮭川中学校生徒打合せ 第1回実行委員会 鮭川村スポーツ推進委員会 詳細検討
令和6年7月25日	豪雨災害発生
令和6年8月	第2回実行委員会 開催の中止を決定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

・持続的なクラブ運営をしていくための必要経費の算出を行った。併せて、受益者負担の具体的な金額を算出するために実証事業を活用し、今後の収支のバランスを見極めることを目的として検証を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・活動体制・運営に関する受け皿としての初期費用支出はなし。

■ランニングコストの分析

・人件費 275千円
 ・諸謝金 570千円
 ・旅費 154千円
 ・消耗品費 68千円
 ・雑役務費 14千円

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

実施期間 4か月(8月～11月)

【野球クラブ】実施回数30回、指導者数2人、実施時間2h

単価/円	実施時間/h	実施回数/回	指導者数/人	謝金合計/円
1,600	× 2	× 30	× 2	= 192,000
謝金	参加者数	実施期間		
192,000円	÷ 7人	÷ 4か月		≒ 月額7,000円/一人当たり

【バレーボールクラブ】実施回数45回、指導者数1人、実施時間2.5h

単価/円	実施時間/h	実施回数/回	指導者数/人	謝金合計/円
1,600	× 2.5	× 45	× 1	= 180,000
謝金	参加者数	実施期間		
180,000円	÷ 9人	÷ 4か月		≒ 月額5,000円/一人当たり

【バドミントンクラブ】実施回数26回、指導者数2人、実施時間2.5h

単価	実施時間	実施回数	指導者数	謝金合計/円
1,600	× 2	× 26	× 2	= 166,400
謝金	参加者数	実施期間		
166,400円	÷ 19人	÷ 4か月		≒ 月額2,200円/一人当たり

平均：月額約5,000円/一人当たり ※旅費、事務経費含まず

今後の課題と対応方針

謝金の負担だけでも月額5,000円という金額が試算された。その他の活動経費を見込むと多額の受益者負担が見込まれる。謝金単価の見直しや経費の圧縮だけではなく、活動経費の分担を見据えて今後はさらに踏み込んだ協議を行っていく必要がある。

仮に野球クラブを各学年10人在籍として試算した場合、月額2,400円となることから、継続的な活動が現実味を帯びてくる。早期に広域的な活動が展開できるよう県や他市町村と協議を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・クラブ活動の際に学校施設を利用して活動する際の申請の流れを明確化する。
- ・クラブ活動の際に学校施設・設備・備品等の使用する際のルールや責任所在を明確化する。

取組の成果

本実証事業において、NPO法人さけがわ友遊クラブが学校施設を使用する際には、鮭川中学校にて作成した部活動計画を基に、NPO法人さけがわ友遊クラブと教育委員会が参加して協議を行い、部活動を①部活動（顧問が担当）②部活動（部活動指導員が担当）③クラブ活動の3つの活動に区分した。

そのうえで、③のクラブ活動分をNPO法人さけがわ友遊クラブから学校施設に利用申請した。これにより、円滑に遅滞なく申請行為を実施できた。備品の使用ルールや責任分担については備品の性質や金額面等もあるため、継続的な検討が必要である。

今後の課題と対応方針

①学校施設の申請手続きについて

現在は実証事業中であるため、鮭川中学校・NPO法人さけがわ友遊クラブ・教育委員会の3者で協議を行い日程調整をしているが、学校担当者の事務が増加し負担となっている面がある。今後、事務の簡素化・効率化も視野に検討していく。

②学校施設の鍵の管理について

現在、NPO法人さけがわ友遊クラブが学校施設を使用する際は、合鍵を貸し出している。令和6年度中に安全管理の更なる向上のために、電子キー（カードキー）の導入を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

・現在の基準で継続的な運営が可能か、さらに、休日に加え平日の活動をした場合の経費を算出し、具体的な経費の分担を可視化するために実施した。併せて、夜間の活動による、生徒の学習面や日常生活等への影響についても検証した。

取組の成果

- ・平日の週2日は学校部活動、平日の週2日と休日の週1日はクラブ活動として実施。
- ・活動を実施した生徒・保護者への影響をヒアリングし、生徒は夜の活動に備え効率的な生活に至っているようであるが、保護者にとって練習会場までの送迎が負担となっている。

指導者の属性や配置の工夫

- ・指導者の属性
公務員・会社員・自営業
- ・配置の工夫
緊急時対応やハラスメント予防等のため、見守りとして2人の保護者を配置をしている。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

- ・学校長の個人面談を経て外部コーチの委嘱を受けている方が、部活動指導員とクラブ指導者を兼任していることから、学校・顧問・クラブと常時情報の共有が図られている。

今後の課題と対応方針

- ・休日の活動以外に平日の活動を実施したため、4か月間と限られた期間での検証となった。現状の単価、経費は継続的な活動をしていくには現実的な負担額ではないことがわかった。引き続き、公費と受益者負担についてより具体的な経費の在り方を早急に検討していく必要がある。
- ・クラブ活動の終了時刻が午後8時半ということもあり、中には帰宅時刻が午後9時頃になる生徒もいるため学校生活への影響が懸念されていたが、部活動の無い日は午後4時、または午後5時には帰宅することからクラブ活動までの時間を学習時間に充てることができ、課題、自学を終えたのちクラブの活動しているとのことだった。平日の夜間の活動については、スポーツ少年団活動が基本的に夜間の活動であったため、活動を経験した生徒にとっては特に影響はないようであった。一方で、会場までの送迎を各家庭で対応しなければならず、家庭の事情で活動に参加できないときもある生徒もいた。また、終了時刻が守られていないことがあり、今後、時間の厳守を徹底していくよう指導していく必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

当村においても少子化に歯止めがかからない状況であるが、中学校生徒数は今後5年程度は現状維持で推移する予測である。しかし、団体競技においてはチームが組めない状況は変わらず、早急な対策を講じなければスポーツ離れが加速していくことが懸念される。スポーツ少年団の保護者にも検討委員会へ参画いただくことで、今後の生徒・保護者への部活動地域移行への理解が進んでいるものと思われる。しかし、地域へ移行する際の受益者負担額に対する不安は拭えない状況となっている。

これまでの実証事業を踏まえ、今年度はコーディネーターを配置し、関係者へのヒアリングを実施した上で、アンケートだけでは読み取れないそれぞれの立場の意向や見解を把握することができた。

●成果の評価

令和3年度から実証事業を継続して実践し、教員の負担軽減につながり、「教材研究の時間に費やすことができる」、「土日に休むことができる」等教員から評価をいただいた。生徒・保護者からは、外部コーチが部活動指導員とクラブの外部コーチを兼任していることから、「通常の部活動と変わらない活動が行なえている」、「一貫した指導や専門的な指導を受けられる」と好意的な意見が聞かれた。指導者からは、「早急に学校から完全に切り離れた活動にしたい」との意見がある一方で、「国の方針が定まらない中で地域移行すべきではない」との意見もある。いずれも、これまでの経緯を根拠にした意見であり、それぞれの活動によって「今後の活動のカチ」の方向性が表れてきた。

また、管内の部活動改革担当者研修会にて他市町村との意見交換をしたことにより、広域的な活動ができる仕組みづくりが急務であることで意見が一致した。

●今後に向けて

実証事業により、受益者負担が謝金だけでも月額5,000円という金額が見えた。その他の活動経費を見込むと多額の受益者負担が見込まれる。継続的なクラブ活動を行うには、謝金単価の見直しや経費の圧縮だけではなく、活動経費の分担を見据えて今後はさらに踏み込んだ協議や検討を行っていく必要がある。

今後、広域的な活動を展開していくうえで、市町村の枠組みを超えた事務局の設置や管内の各団体の連盟、協会との協議を行っていく必要がある。

参加者の声①

●中学校教員の声

【メリット】

- 土日の部活動指導等をお願いして、休日に休むことができ家庭での作業が進められた
- クラブと部活動と幅広い指導が行なうことができた
- 教材研究などに時間を費やすことができた
- 積極的に地域移行が行われ、教員の勤務時間軽減に大いに貢献している
- 平日も更に移行されていくと生徒との時間や教材研究に費やす時間も確保できると考える
- 教員の負担軽減になっている

【デメリット】

- ▲休日での生徒の関わりが少なくなり、練習や試合など、様子を見る機会が減ってきた
- ▲練習や指導の在り方について、コーチと顧問の連携を密にしていく必要がある
- ▲クラブ活動の際、学校から見えないところでの人間関係の問題があった場合の対処はどう考えているのか
- ▲部活動は生徒指導も兼ねている自負がある

【要望】

- 子どもの数も減っているので最上地区全体で受け皿を考えていくべき
- 文化部も地域移行を進めてもらいたい
- 活動をする中で、細かなルールの統一化、明確なマニュアルを整えて欲しい（体育館・ピロティ・グラウンド・トイレ・バス等の項目について）

参加者の声②

●指導者・保護者の声

【メリット】

- 学校との連携が密に取れており活動しやすい
- 外部コーチとクラブ活動の指導者が同一なのは子どもたちにとって困惑することがなくて大変ありがたい

【デメリット】

- ▲月報、旅費精算等事務的処理の改善が必要
- ▲部活動としての活動なのか、クラブ活動なのか明確でないときがある

【要望】

- 国の方針が決まらないと進めにくい
- スクールバスの活用、施設の施解錠の改善を早急に進めてもらいたい
- ことば遣い、資格の必要性、施設利用の際のルールの一統化が必要
- 村内の子どもたちだけではチームが組めないのは明らかであるため、早急に複数の市町村でクラブ化したい

2.実証内容と成果④

活 動 写 真



【野球クラブ】



【バレーボールクラブ】



【バドミントンクラブ】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

平成22年

さげがわ友遊クラブ
による部活動支援
事業開始

PTA総会にてクラ
ブ活動の紹介、説
明

令和3年

地域運動部活
動推進事業受
託

スクールバス、およ
び部活動指導員の
活用について検討

令和6年

地域スポーツクラブ
活動体制整備事業
受託

令和7年

村独自予算での
事業実施
広域的な活動に
向けて協議

●ステークホルダー

ジュニア世代(中学生/小学生)

●経過

部活動支援事業として施設申請、スポーツ安全保険加入手続き、事故受付等事務的業務を総合型地域スポーツクラブが一括して行う。併せて大会運営補助の連携をスタートした。

●実施にあたって生じた課題

toto助成金を財源としていたため助成期間終了と同時に指導者への謝金財源の確保が難しくなり、無償ボランティアとなった。

●実施内容、工夫した点等

部活動のみならず、学校行事にクラブスタッフの派遣を行い、学校との連携強化を図った。

●ステークホルダー

生徒・教員・指導者・保護者・クラブ

●経過

これまでの活動を小規模校の事例として実証事業を受託。学校・教育委員会・総合型地域スポーツクラブによる三者協議を進め、「部活動地域移行検討委員会」を設置した。今後も継続可能な新たな仕組みづくりについて検討を行った。

●実施にあたって生じた課題

学校管轄外でのスクールバスの利用について

●実施内容、工夫した点等

学校と協議し、施設申請、活動計画、活動報告の流れを再確認した。

●ステークホルダー

学校・教育委員会・生徒・指導者・保護者・総合型地域スポーツクラブ

●経過

これまでの経過を踏まえ、部活動関係者へのヒアリングを実施

●実施にあたって生じた課題

クラブ活動を実施するにあたり細かなルールが明確化されていないことが多く挙げられた。

●実施内容、工夫した点等

令和8年度の移行完了に向けて、学校・教育委員会・総合型地域スポーツクラブの三者によるルールの明確化や統一化を図っていくことを確認した。

3. 今後の方向性

